ALUMNI NEWS

INTERNATIONAL
CHRISTIAN UNIVERSITY

ICU ALUMNI
ASSOCIATION
3-10-2, Osawa
Mitaka-shi, Tokyo 181-8585

TEL&FAX : 0422 33 3320
http:www.icualumni.com/
E-mail : aaoffice@icualumni.com

ALUMNI NEWS
VOL.123 MAR.2015

特集　改めてICUの「C」とは

大学の中に教会があるってどういうこと？ : p.02
なつかしの学生C活動 : p.06
同窓会グッズ一挙公開・誌上通販します！ : p.10

C×ICU

特集 改めてICUの「C」とは

大学の中に教会があるってどういうこと？

以前は珍しかった、リベラル・アーツを掲げる大学が増えてきた。国際性、異文化交流、多文化共生を謳う大学はいわずもがな。その中でICUの独自性は……と振り返ると、もちろん数々あるけれど、いまさらながらICUの「C」が目立つ。そもそも、なぜ大学の真ん中に“教会”があるの？　今回はこの素朴な疑問ののぞき穴から、ICUの「C」をのぞいてみよう。

取材：岡田庄生、加藤菜穂、栗山のぞみ　文：栗山のぞみ　写真：樺島栄一郎、加藤菜穂（本誌）

理念を共有し、学生のために祈り続ける教会

「日本では、たぶんここにしかないはずです。世界にもあまり例はないのではないでしょうか……」

卒業生にして大学牧師、ICU教会牧師を兼任する北中晶子さん（46　ID02）はこう言う。大学に限らず、キリスト教系の学園であればほとんど例外なくキャンパス内にチャペルがある。ICUの灰色のコンクリートの礼拝堂が素っ気なく思えるほど、歴史の重みを感じさせる趣のあるチャペルを誇る大学も多数ある。○○大学教会と名前のつく教会もさほど珍しくはない。例えば、明治学院大学教会、聖学院大学教会なども、学内のチャペルが日曜日には地域の人々も集う教会となっている。

ではICUの何が、いったいどこが、そんなにユニークなのか。

「ICUという大学とICU教会の在り方、関わり方は他では聞いたことがありません。教会は大学から独立して組織、運営される別団体です。そういう前提がありつつ、魯恩碩（ロ・ウンソク）先生、ポール・ジョンソン先生、そして私と３人の牧師は、いずれも大学の宗教活動をリードあるいはサポートし、学生や職員の方々の信仰上の悩みなどの相談にのる大学牧師であり、同時に地域に開かれた一般の教会の牧師であるという両方を兼務しています。宗務部は、大学の部署としては大学の宗教生活を支える宗務部であり、一方で教会のあれこれを取り仕切る教会事務所でもあります。宗務部のセクレタリーのお二人も牧師同様、大学と教会と両面の仕事を担っています。他の大学で、大学と教会が建物を兼用する例はあるかもしれませんが、理念の一致のために、スタッフまでも完全に共有している例を私は知りません」

どちらが表とも裏とも言えないが、大学とキリスト教会が一致してひとつの理念を表すことに挑戦し続けているのがICUなのだ。その理念とは、もちろん、IでありCであり、Uであること。初期の要覧（ここでは「国際基督教大学要覧1955－56」を参照）には、その特色として以下のように書かれている。

「……学園に基督教的（＝C）国際共同社会（＝I）の実現を期し、かくして自由愛と真理愛に徹する国際平和人を養成（＝U）して日本における本学の国際的使命を達せん……」（カッコは筆者が挿入）

この文章に続けて具体的な９項目が挙げられており、その５番目には「学園内にキリストの真理を求むるすべての人々の共同体としての教会を設けて健全なる宗教生活の実現に資し、基督の精神にもとづいた人生観と世界観の確立を期する」（傍点筆者）と、キャンパス内に一般に開かれた教会が存在することが述べられている。

一方教会の側では、現在も洗礼・入会式のたびに朗読される「国際基督教大学教会会則」に、教会の目的として「第一に、神を求め神に仕えるものが、あらゆる立場のキリスト者よりなるフェローシップをつくること、第二に、国際基督教大学の宗教生活および教育の完成を助けること、第三に、キリストの精神を通してすべての人々に、福音の宣教と奉仕の誠とを尽くすこと」とある。

ICU教会は、日曜日には学生、職員はもちろん地域の人々も含めてすべての人に開かれた礼拝が行われ、礼拝に出席している人は、相手が知ろうが知るまいが構わず、大学のため、すなわち学生たち一人ひとりのためにも祈っている。

大学なくしてICU教会はない。しかしICUという大学も、全世界の、とくに北米の多数の教会なくしては生まれ得なかったのはご存じのとおりである。

キャンパスの中に〝生きた〟教会がある意味は

北中さんはこうも言う。「大学の中に、赤ちゃんからお年寄りまでが集う、ほんとうに生きたコミュニティである教会があるということが、珍しいのです」

キャンパスで子どもたちの姿を見かけることは少なくない。天気のよい日曜日の午後には教会学校の子どもたちもバカ山を駆け巡っている。子どもが教会幼児園に、あるいはICU高校や大学に通ったのをきっかけに、単に近所だから、キャンパスが広くてステキだから、オルガンの音色に惹かれてなど、理由はさまざまだが、日曜日

北中晶子
KITANAKA, Shoko（46 ID02）
2010年の着任以来、大学牧師、教会牧師、教会幼児園の園長として八面六臂の活躍。学生たちからは“ショウコ先生”と呼ばれて親しまれている。キリストの福音の真芯を突く明快な説教には幼稚園児から年配者までファン多し。スリムな体型から筆者を含む教会のオバチャンたちに「もっと食べなさい！」と言われるのが悩み。

10時半に鐘の音が鳴るころ、ベビーバギーを押しながら、あるいはさっそうと自転車に乗って、あるいは杖をつきつつ礼拝に集う人々がいる。

「学生に意外と多いんですよ。クリスチャンホーム生まれでもなく、これまで教会に行ったことはないけれど、キリスト教に興味を持って教会に行ってみたくなった。でも、選択肢が多すぎてどこに行ったらいいのかわかりません、という人が。そんなとき、自分の通っている大学に教会があることは大きいですね。ICU教会は、特に、そんな学生さんが『お試し』できる教会であることがありがたいです」

毎日曜250人もが出席するICU教会は、日本のキリスト教会としては大規模に類する。誰が来ていて、誰が来ていないなどは、親しい人でなければあまり気が付かない。だから、ちょっと参加して雰囲気を味わってみるにはうってつけなのだ。

「『お試し』した学生さんは、感想として『ICUと雰囲気が似ている』とよく言います。これは当たり前のようで当たり前でもないのです。教会には当然ICUがどういう大学で何を理念としているかも知らない方々もたくさんいらっしゃいますから。でも、通じる雰囲気、同じ匂い（笑）がある。だから学生たちも、安心して続けて日曜礼拝にも出席するようになるんですね」

“生きている”コミュニティであるとは、単にさまざまな背景を持った、いろんな年齢層の人が集まっているだけではない。例えば、教会を運営する役員会には、教会の設立当初から、学生、ファカルティメンバー、地域住民、日本語を母語とする人、そうでない人が、それぞれの代表として加わっている。教会で何かを行うときは常に、先に挙げた目的、特に第２の「ICUの教育の完成を助けること」になるかどうか役員会で慎重に議論される。

こんな堅苦しいことを持ち出すまでもない。教会に行けば、年齢の違う人たちが親しく語り合っているのを見かけるし、ときどき（正確には新入生歓迎礼拝、卒業礼拝、イースター）礼拝後に教会員が用意したおいしいお菓子がでる。教会の前庭を走り回る子どもたちはイヤでも目に飛び込んでくる、ときに、隣に座った祖父母ほどの年齢の人が涙をぬぐって説教に聞き入っているのを見ることもあるだろう。授業でもない、ゼミでもない、同好会でもない場所。自分がそこに属しているのかそうでないのかさえ、曖昧なままで許される。誰かに積極的に話しかけたり、自分から働きかけることがなくとも、こうしたコミュニティの中に身を置くことは確実に何らかの影響を及ぼすものだ。

ICU教会員で、現在、教会役員長を務める矢嶋直規さん（哲学・宗教学デパートメント・教授）は、大学に教会のある喜びをこう語る。

「大学に来るまでキリスト教に触れる機会などほとんどなかったような学生が、キリスト教を知り、仲間と出会い、教会を知って、洗礼を受けクリスチャンとして生きるようになる。それを目の前に見ることができるのは本当に幸せなことです」

教会員の方でも、大学の影響を受けないわけはない。子ども時代は教会学校教師の学生や賛美をリードしてくれる学生にあこがれ、教会員もワークキャンプやC-WEEKの報告を礼拝の中で、あるいは礼拝後の交わりの時間に聴いたりする。それだけに留まらず、公開市民講座として開講されている授業を受講する教会員がいたり、学生の演劇公演やワークショップなどの情報をキャッチして子どもたちと参加したという声も聞く。

教派を超える＝エキュメニカルなキリスト教

キリスト教のことを少しでも知っている方なら、「では、そんなICUのキリスト教やICU教会って、どの教派の流れを汲んでいるの？」と思うことだろう。自分の知っているキリスト教のイメージに近いものだろうかと。

ICUは大学も教会も、創立当初から“エキュメニカル”という言葉を掲げてきた。昨年9月28日エキュメニカル聖日の礼拝説教で、北中さんは、エキュメニカルをこう説明していた。

「エキュメニカルという言葉は、教派を超えて対話と協力を図る、キリスト教会の一致促進運動を表しています。（略）今日、全世界のキリスト教会の教派は、数にして４万を超えるともいわれます。礼拝や聖礼典、教会の職制に対する考え方をはじめ、時事問題や社会現象に対する捉え方も、もちろん聖書の捉え方も、実に多様です。

しかし、それにも関わらず、私たちは本来、ひとつである。これがエキュメニカルという言葉に込められた意味であり、すべてのエキュメニカル運動の土台であり、目標であり、変わることのない原動力です」

『国際基督教大学創立史―明日の大学へのヴィジョン（一九四五―六三年）―』（C.W.アイグルハート著）をひもとくまでもなく、終戦直後70年前に北米と日本を中心にあらゆる教派の教会が、主イエス・キリストの名のもと、日本にキリスト教大学を建て上げるという一致したヴィジョンを持ち、新しい冒険に挑んだことは知られている。ICU設立に関する最初の合同委員会には、会衆キリスト教会、福音改革派教会、メソジスト教会、米国（北）長老教会、北バプテスト教会、福音合同ブレズレン教会、米国改革教会、カナダ合同教会、全米バプテストコンヴェンションなどの代表者がずらりと並んでいる。

これは世界のキリスト教の歴史からみてもスゴイことらしいのだが、それはさておき、このことと連動するかのように興味深い事実を指摘しておきたい。ICUの不思議の１つに、神学部（牧師や神父などになるための特別な学びをする学部）があるわけでもないのに、卒業後に牧師になったり、キリスト教学校で宗教を受け持つ宗教教諭となる人が一定数いることが挙げられる。およそ10年に１度、そうした牧師、教師を対象に宗務部主催で開催される同窓会をAN112号にて紹介したが、集まったメンバーの所属教派は見事にバラバラなのだった。カトリックあり、聖公会、ルーテルあり、長老派、メソジスト、会衆派、バプテスト、ホーリネス系……など、まるでキリスト教教派の見本市のよう。この多様性を見るにつけても、ICUのICUたるゆえんを感じてホッとする。同時に、“立場の違いを超えた対話”が実現していることに、ワクワクしたものだ。

近隣社会と大学とをつなぐチャンネル

北中さんは、中学高校とキリスト教系の一貫校で学びキリスト教と出会い、教会生活へのあこがれを持った。しかし、中高時代に訪ねてみた近所の教会は、どちらかというと堅苦しく、同年代の子どもの姿も見えずなじむことができなかったそうだ。ICUに入学後「ようやく教会に加われる！」と喜んで日曜日の礼拝に来てみたら、学生仲間はいる、知っている先生もいて授業とは違う場で話せる！と楽しくて通い続け、洗礼を受け……そして今、不思議な導きで自分自身が同教会の牧師として務めることになった、と笑う。

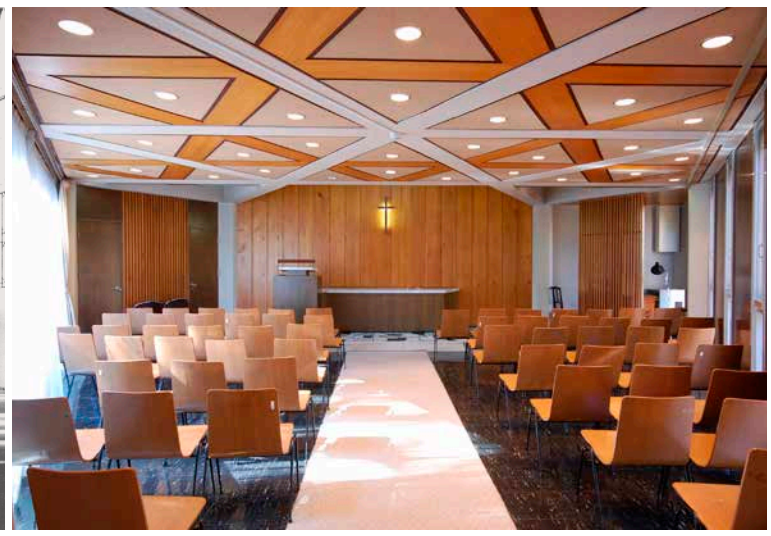
そこで、その面白さと難しさについて聞いてみた。

「難しさは2つあります。１つは５年たってだんだん慣れてきたとは言えるのですが、牧師の主な務めである日曜礼拝で説教をするとき、会衆席に私よりもずっとずっとご経験も、洞察もはるかに海のように深い方たちがいらっしゃるのを見ると、『私

ある冬の日曜日、礼拝後のチャペル前

開学翌年にできた旧チャペル　国際基督教大学図書館歴史資料室提供

旧チャペルの内部　国際基督教大学図書館歴史資料室提供



本館の西側にあるシーベリーチャペル内部

のような若造が、この方々を前にして何を語ることができるだろう……』という気持ちになることです」

確かにそうだろう。ICUの教授陣だけではない。隣接する東京神学大学の教授（つまりベテラン牧師でもある）らが出席することもあるのがICU教会の日曜日なのだ。

もう１つの難しさは“ICUという大学”とはこれまで縁のないまま教会に加わった方々に大学のことをどのように伝えていくか、また、“ICU”に通いながら日曜日に教会で何が行われているのか知らない、興味を持たない学生たちに、どのように教会の存在を知らせるかだと言う。

「日曜礼拝では、祈りや報告の中で、今学生たちはこんなことをしています、大学としては試験のシーズンです、C-WEEKです、学園祭が近づいています等々と発信しています。また、大学の側にも、教会はこんなことをしていますよと、2つをつなぐために常に双方向に発信することを心がけています。この中で両方の牧師として働くというのは簡単にできることではないのですが、それが同時に面白さでもあるのです」

60年間冒険し、挑戦し続けてきた大学と教会

ICU教会を「前例のないものをやってみようとする“冒険”の精神や、新しいことに“賭ける”自由さ、しなやかさがあると感じる」と語る北中さん。彼女自身もまた、大学と教会と両方の中で冒険している一人なのだろう。

期せずして“冒険”という言葉を聞いたが、この言葉は前述の『国際基督教大学創立史―明日の大学へのヴィジョン（一九四五―六三年）―』で、イヤというほど繰り返される。そもそも「キリスト教大学」と名乗ること、「キリスト教」を大学名に入れることが冒険であったのだ。ともすれば、宗教を強要する、あるいは狭量な見地しか認めないかのような誤解に満ちた批判を受ける可能性さえあった。

要覧にも明記されているように、大学はキリスト教主義に立つが、同時に学生自身の思想、宗教はまったくの自由であり、それを保証している。

1952年の献学式で、湯浅八郎初代学長はこのように語った。

「あなた方はキリスト者になるように求められることはありません。けれども、私たちは、あなた方に――あなた方一人一人に――キリスト者としての生き方で挑戦してゆくつもりです」

この響きは、60余年を経たいまも鳴り止むことはない。現在の大学のウェブサイトに書かれている「キリスト教への使命」の中にもこうある。

「学生一人ひとりは、学園生活を通じて個々の人生や社会生活の中における神の存在とその力に目を開くよう呼びかけられています。この呼びかけは、学生が自ら真理を求め、それぞれが見出した真理に身を捧げることを願う、大学から学生への挑戦です」

大学本体の「C」についても、追って機会があれば改めてリポートしたい。今回は、大学と卒業生をつなぐチャンネルの一つとして、教会もこのキャンパスにあることを思い起こしてもらうところで筆を置くことにする。もしも、とある日曜日、目覚めて気が向いたら、ぜひ、礼拝へ……。

ICU教会　ご案内

主日礼拝　毎週日曜日　午前10:30～　大学礼拝堂
日英バイリンガルで礼拝を行っています。
＊車での来会には、A駐車場をご利用ください。
＊礼拝中小さいお子さんを預かる「子どもの部屋」もあります。

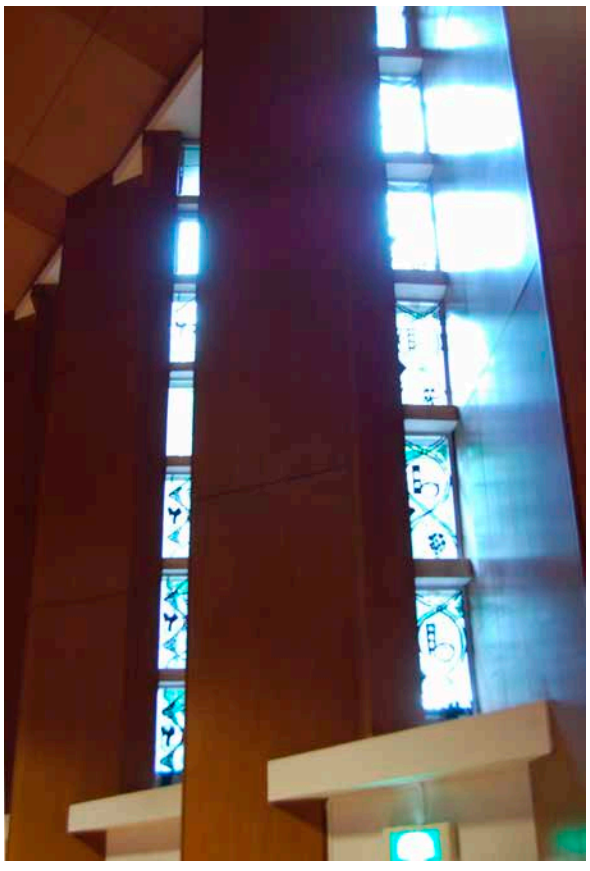
教会学校　毎週日曜日　午前9：00～　ハーパーホール
＊幼稚科／小学低学年科／小学高学年科／中高科／成人科

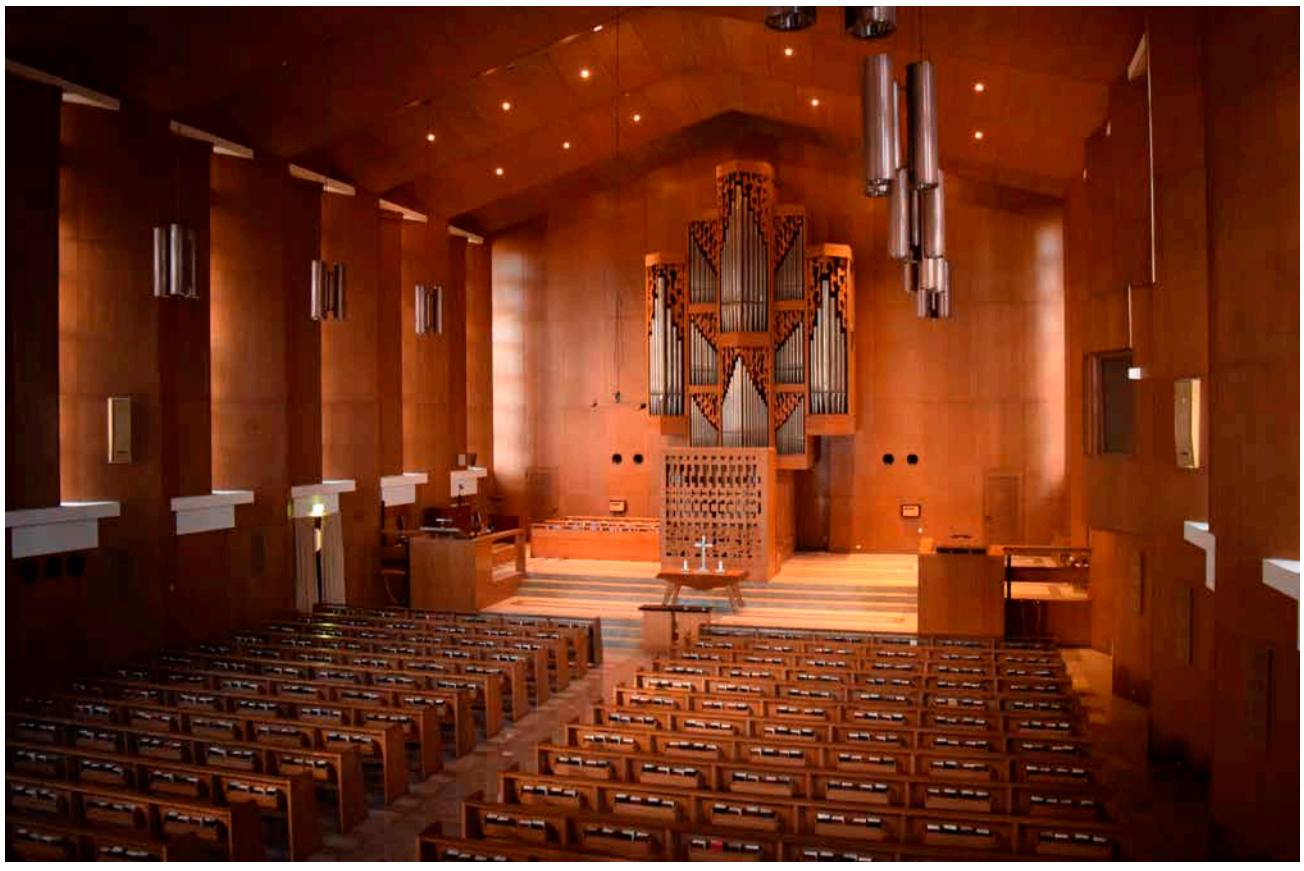
卒業生でキリスト教献身者の情報を求めています。

・ICUを卒業した後に神学校に進まれて神父、牧師、伝道師等になられた方
・パートナーが牧師、伝道師等で共に伝道の業に励んでおられる方
・キリスト教学校等で宗教教育に携わっている方
・キリスト教宣教団体、NGO等で専任職に就かれている方

上記にあてはまる方で「2009年の伝道教職者の会」の案内を受け取らなかった方、2010年以降に上記の務めに就かれた方は、下記の大学宗務部にご一報ください。
また、周囲にそのような卒業生をご存じでしたらお知らせください。

連絡先：〒181-8585　東京都三鷹市大沢3－10－2
国際基督教大学（ICU）　宗務部内
0422-33-3323／ E-mail　relcenter@icu.ac.jp





教会を『お試し』するなら、いつがオススメ？

座談：北中晶子牧師／岡田庄生、加藤菜穂、栗山のぞみ（以上本誌）

イラスト・阪本由紀（ICU教会員）

岡田：チャペルに足を踏み入れた回数って、「入学式、卒業式の２回だけ」、「その２回プラス自身の、あるいは友人の結婚式」というのが多数派なのではないでしょうか。その人達が気軽に日曜礼拝に来るかな、というのが疑問なのですが、記事の中で学生が『お試し』しているように、フラッと日曜礼拝に現れる卒業生っているのですか？

北中：ふと思い立って日曜礼拝に来てみた、という方はけっこういらっしゃいますよ。先日は「卒業後初めて来ました」という４期生の方が声をかけてくださいました。大学や同窓会のイベントが何もなくても、日曜日なら確実に教会で礼拝をやっています。ですから、いつでも帰ってきて下さい！

岡田：あまり教会に縁がない人が来るのによいタイミングってありますか？

栗山：ここの礼拝堂で結婚式を挙げられた方は多いと思うんですよ。ですから、結婚記念日近くの日曜日に来てみるのはどうですか？　私はICU教会員でもあるので、本音を言うと教会の側から、「記念日が近づきましたね。礼拝においでください」とお誘いのお便りができたらいいなと思うのですけれど……。

北中：実は、そういう理由で、カップルでいらっしゃる方もいます。卒業生でも大学礼拝堂で結婚式を挙げる方は事前に牧師と１回は面談していただきますので、面談日が日曜日だと礼拝に出てみるマジメな方もたまにいます。

加藤：私は地元育ちなのですけれど、年に１度、教会がバザーをやっているじゃないですか。そういうときって、お買い物するのも楽しいし、来やすいと思うんですよね。だからバザーのある日曜日がオススメです！　子どものときは地元の友達を誘うのにいい機会でした。

北中：私にもオススメの時期があります。実は、クリスマス過ぎてからの年末、年始の礼拝です。普段は200人以上集まるのですが、このときはご実家に帰られる方などもいるようで礼拝出席の人数が少なくなるのです。だからこそ、すごく家庭的で温かい雰囲気があって私は大好きです。年末年始の区切りにもなりますし、気持ちもしゃきっとしますよ。

岡田：では、今年の年末にぜひ（笑）！

北中：いえ、そんなもったいぶらずに……！　いつでも歓迎しますので、ぜひ、いらしてください。

ICU教会の週報表紙画の作者は……!?

文：木越純（27 ID83）現同窓会会長

2001年8月、7年間のロンドン駐在を終え帰朝してすぐの日曜日に、久しぶりにICU教会の日曜礼拝に集いました。受け取った週報を見たときの驚きと喜びを、私は今でも忘れません。20年近く前に自分が作った切り絵が、久々に教会に戻ってきた自分を迎えてくれたのですから。

私は1979年の春にICUに入学し、じきに日曜礼拝にも集うようになりました、個性豊かな牧師先生や敬虔（けいけん）なクリスチャンである先生方、友人達に導かれて、3年生の5月のペンテコステ聖日に洗礼を受けました。

よく版画ですかと問われますが、この作品は黒いラシャ紙をＮＴカッターで切りぬいた切り絵です。ちょうど私が洗礼を受けた３年生の夏に教会のコンペに応募したものです。それまで特に習った訳でもないのにカッターの切っ先が動きました。あれから35年、いまでもICU教会の週報の表紙を飾ってくれています。ただ切り絵に刻んだ木々は、今では教会堂の屋根を超えるまでに育っています。

現同窓会会長、木越氏の35年前の作品が表紙になっているICU教会週報

吉住歯科矯正クリニック

お問い合わせ・ご相談、初回無料カウンセリングのご予約　0422-48-3365

1976年に吉祥寺に初めての矯正歯科専門クリニックとして開業し、現在は4000人近い患者様の歯並びに携わってきた経験豊富な院長と、ICU卒業後、東京歯科大学を卒業し歯科医師となり、同大学歯科矯正学講座にて研鑽を積んだ副院長の二人で、地域に根ざしたクリニックを目指しています。
国際社会で活躍する上では「キレイな歯並び」は必須条件とも言えます。欧米では「キレイな歯並び」が社会的ステータスであるとも言われていますが、当クリニックでは見た目だけでなく、正しい機能的な噛み合わせを目標にしています。機能的な噛み合わせは、日常生活において食事が食べやすくなったり喋りやすくなるばかりでなく、虫歯や歯周病の予防にもなり、結果として審美性やQOL（Quality of Life）の向上につながります。
歯並びを治すことで、これから国際社会で活躍するであろうICU生ならびにそのご家族の一助になれれば光栄です。
歯並びのお悩みは是非当クリニックにご相談ください！

院長 吉住 肇
東京医科歯科大学
歯学部卒業
日本矯正歯科学会認定医

副院長 吉住 淳
国際基督教大学教養学部卒業
（人文科学科、04セプテン）
東京歯科大学歯学部卒業
同大学歯科矯正学講座所属
日本矯正歯科学会・
東京矯正歯科学会所属

住所　東京都武蔵野市吉祥寺南町1-10-1 東ビル 3F
アクセス　吉祥寺駅南口徒歩3分
受付時間　10:00～18:00
休診日　木曜日・日曜日
HP　http://www.yoshizumi-c.com

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
午前診療（10:00～13:00）	●	●	●	—	●	●	—	●
午後診療（14:30～18:00）	●	●	●	—	●	●	—	●

なつかしの「C」活動

求めつつも悩んだり、ときに反発しながら「C」と出会った

The Religious Programs

今も昔も、キリスト教主義に立って続けられている数々の学内活動。
あの活動を通してパートナーに出会った、人生を変えられたという人も少なくないのでは？
脈々と続いてきた、「C」（Christianity）関連活動を振り返ってみよう。

文・写真：栗山のぞみ（本誌）

自主的なC活動は大学設立よりも早かった！

ICUコミュニティでのキリスト教活動は、大学開学よりも早くスタートしていた。日曜学校（教会学校）は、開学準備のためにスタッフが構内に居住しはじめたころ、1951年11月に発足し（国際基督教大学要覧1955－56年）、52年には大沢地区の200人を超える子どもたちが詰めかけていた、との記述がある。また、1952年５月１日は大学の前身となるICU語学研修所の始業日だったが、この日から３週間も経たないうちに学生たちの自主的な聖書研究会が始まったという。教職員による礼拝も定期的に行われており、夏期には屋外で開催されたとも書かれていて、牧歌的な風景が目に浮かぶ。

さて、今も続くICU宗務部主催の大きな活動といえば、週に１度の大学礼拝（チャペルアワー）と国内外へのワークキャンプ、そして、宗務部が支援しつつ学生の委員会が主催する年に１度のC-Weekが挙げられる。関わる学生は必ずしもクリスチャンとは限らない。そこが、ICUのC活動の面白さ、ダイナミズムでもある。

開学当時のチャペルアワーは今と同じく週に１度だったが、なんと1時間に及び、主日（日曜）礼拝と同じような本格的な礼拝だったようだ。前述の要覧によれば、出席は強制されないが「全学の者がこれに参加する」とある。現在の大学礼拝は火曜日の昼休みに行われている。「全学」とはいかないがそれでも毎回100名以上の学生、ファカルティメンバーが参加し、メッセージは牧師だけでなく教員や学生も担当して信仰を証しする場となっている。また時折、学生有志による音楽瞑想礼拝となることもある。アカデミックな生活の中で、心を静めて神さまと向かい合うひとときだ。

C-weekの部屋の壁にはかつての思い出の写真が

C-week実行委員会の小部屋のドア

先生との距離が縮まるオープンハウス

最初のC-Weekは、開学翌年1954年４月13日から19日まで「宗教強調週間」という名前で開催された。先の要覧によると「学生は少人数に分かれて教授宅に招待され、彼らの宗教的諸問題に就いて腹臓なき意見が交わされた」と、今も続くオープンハウスが早くも行われてことは興味深い。先生のお宅というプライベートな空間にお邪魔して、宗教について、世界について、自己について……答えのない話題を親しく語り合う経験が後の人生に影響した人も多いのではないのだろうか。ちなみに宗務部によると、C-Weekと名称が変更されたのは1978年頃だろうとのこと。（1977年の記録が紛失しているため、正確には不明）。

今年もC-Weekの準備は始まっている。毎年、学外から著名人を招いての講演や特別大学礼拝等はICU教会員や近隣の住民も参加し盛況だ。2015年のテーマは「初めに言（ことば）があった」だそうだ。

労働を通して世界に目を開く

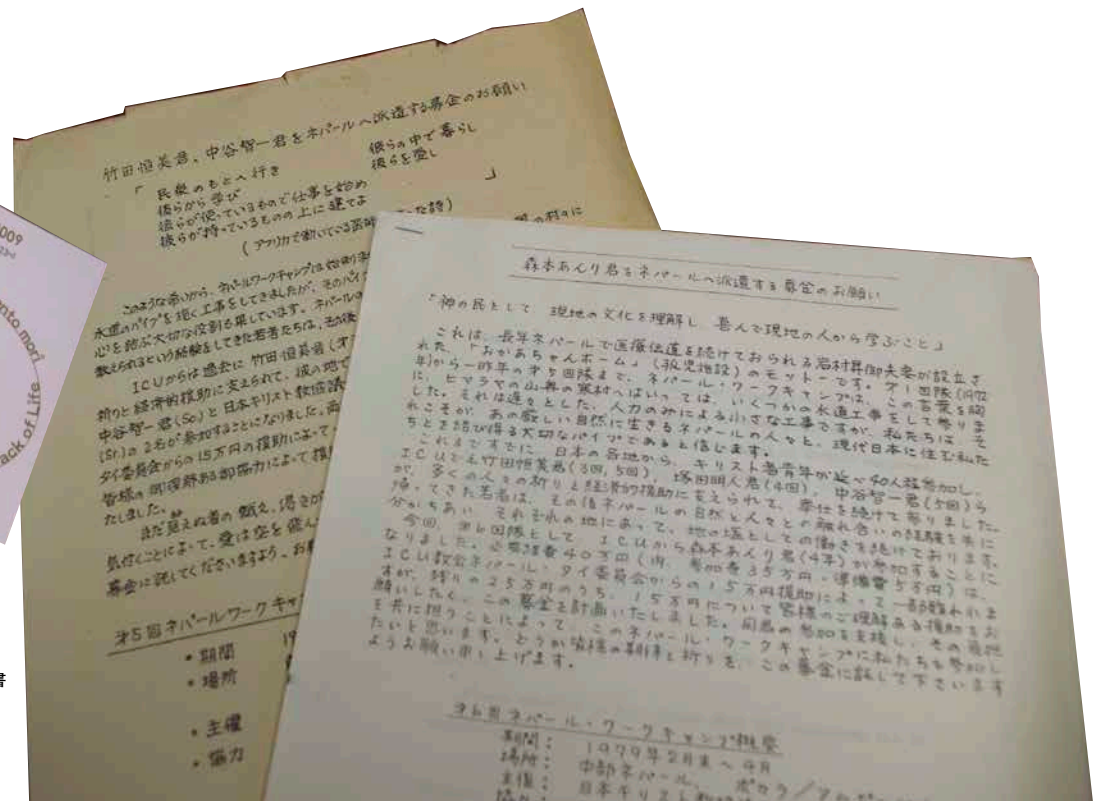
ワークキャンプの発端を求めて残されている資料を探ったところ、1970年代前半から日本YMCA主催のワークキャンプに、ICU教会をはじめ有志が支援して学生を送り出していた記録を見つけた。学部４年生だった現・副学長の森本あんり教授をネパールに派遣する際の寄付呼びかけ用紙が残っており、寄付額はなんと一口100円！時代を感じさせる。

学生がまとまって海外に出かけるワークキャンプとしては、1982年にタイ国チェンマイにあるパヤップ大学と協力して農村地域に教会を建設するタイ・ワークキャンプが始まり、30回を数えるまで続いた。また、1991年、1995年にはフィリピンのシリマン大学と提携する形でフィリピン・ワークキャンプも実施された。これらアジア各国の大学と交流しながら現地で学び、ともに祈り、労働奉仕するキャンプは、2014年にはインドネシアのペトラキリスト教大学との協力で行われ、今年の３月にも同じくインドネシアで２週間開催される予定だ。ワークキャンプは国外だけでなく、秋休みには栃木県のアジア学院でも実施されている。アジア学院は、アジア・アフリカ等から集まった草の根リーダーたちが有機栽培をはじめとする持続可能な農業とリーダーシップを学ぶ施設。彼らと触れ合い、農作業に勤しみながら、世界へと目を開く機会となっている。

宗務部になぜか集まる学生たち

今も昔も名前のついた“活動”や“サークル”とは別に、意味なく宗務部に集まる学生たちがいる。セクレタリーにお菓子をもらったり、牧師と話したり、片隅で課題に取組む学生も。礼拝ポスターを学内各所の掲示板に張り出す等々のアルバイトにありつくこともある。宗務部を自分の居場所と定めて“たむろ”する……身に覚えのある方もいることだろう。こうしたゆるやかな交わりや空間が、実はキリスト教活動を今も生き生きと継続させる、大切な原動力となっているのかもしれない。

C-weekのパンフレット



昔のワークキャンプ寄付依頼書

現役学生の「C」活動

賛美でつながる、自分と、仲間と、神様と

WorshipNight！

ICUにはいくつかの、キリスト教と密接に関わるサークル活動が存在します。キリスト教週間を企画するC-WEEK実行委員会、聖書について学ぶKGK、Bible & Bible、賛美歌やゴスペルを歌うグリークラブ、The Clumsy Chorusなど、活動内容も多種多様です。その中の1つ、学生が主体となって行う礼拝「WorshipNight（ワーシップナイト）」を取材しました。

文・写真：加藤菜穂（本誌）

金曜日の夜はシーベリーがライヴ会場に!?

金曜日の夜、7限の授業が終わると、バカ山の木陰に建つ小さな礼拝堂シーベリーチャペルにパラパラと集まり出す学生たち。冬の寒空の下からホールの中に足を踏み入れると、温かいライトに照らされて目に飛び込んで来るのは、大きなスクリーン、ドラムセット、ギター、キーボードなど。まるで音楽のライブ会場のような雰囲気です。

2人の学生が前に立ち、進行し始めました。1人が日本語で話すと、もう１人がその場で英語に通訳します。始まりはワーシップソングの大合唱から。スクリーンに歌詞が映し出され、司会によるリードで歌い出します。伴奏は有志バンドの生演奏です。みんな思い思いに体を動かし、目を閉じたり顔を見交わしたり、神様への愛に満ちた言葉をかみしめるように、大きな声で歌います。何曲か声を合わせた後、メッセージを担当する学生が紹介されます。

この日のメッセージは、次の3月に卒業し、春から介護士として出発する学生。「職業を選ぶ際、周囲からの反対を受けたり疑問を抱かれたりしたが、外からの声に惑わされず、自分の内なる声が本当に望んだ道を歩む決意をした」と語ります。同じく進路について悩み決意しなければならない時期にあり、自信と不安のはざまで揺れ動く聴衆たちは、時にうなずき、目に涙を浮かべ、真剣に聞き入っていました。

感謝の祈りとともに礼拝が終わると、お茶とお菓子のテーブルを囲み、楽しいおしゃべりタイム。久しぶりのお友達と近況報告をしたり、楽器を奏でて遊んだり、写真を撮りっこしたり、和気あいあい、賑やかです。ここでも日本語と英語の両方が聞こえて来るのが、なんともICUらしいですね。

学生の、学生による、学生のための礼拝

ワーシップナイトは2008年、ID12の学生によって発足した、学内でも比較的新しいキリスト教活動です。内容は、まさに「学生の、学生による、学生のための礼拝」。

活動は、毎週金曜日の放課後、シーベリーチャペルにて。毎回、祈り、ワーシップソング、メッセージなど賛美を中心とした礼拝があり、司会進行、歌詞をスクリーンに表示するオペレーター、楽器演奏などの各役割は、全て学生によって担われます。メッセージを語るのも学生が主ですが、ときに先生方が登場することも。礼拝の後は交流会。自由に会話を楽しみます。ときには、隅の方で真剣な悩みごとの相談をしたり、ともに祈ったりする学生たちの姿も見られるそうです。毎週の礼拝の他には、合宿もあります。

創始当初は留学生が多くを占めていましたが、年を経て日本人の学生も増えてきました。そのため礼拝は全てバイリンガル。いわゆる部活やサークルのように固定したメンバー制度はなく、誰でも参加でき、学年も国籍もバラバラ、クリスチャンもそうでない人もいます。取材で訪れた今回、初めて参加したのは4人。そのうちの1人が「ずっと気になっていたけれど、4年生になってやっと来ることができた。来て良かった」と、目を輝かせていました。

クリスチャンではない人にこそ来てもらいたい

スタートから６年、もちろん、困難が訪れるときもありました。機材が故障する、楽器を演奏できるメンバーが足りない、寮の行事やテスト期間と重なり人が集まりづらい、などなど……。しかし、その都度みんなで考え、工夫し、今日まで継続してきました。通常20～30人集まるところ2人しかいなかった日があり、その時には2人で祈り合う時間を過ごしたというエピソードがとても印象的でした。

13度のリーダーで、ICU教会の日曜礼拝とワーシップナイトの両方に通い続けている橘川玲奈さん（ID15）にお話を伺いました。

「もちろん、日曜日の礼拝も大事。でも、それとは違う発見やつながりが、ここにはあります。のびのびと自分らしく大きな声で神様への愛を歌えること、メッセージでは同年代の学生が神様とどんな対話をしているのか、どんな考えを持っているのか聞けるので、神様をよりいっそう近くに感じられるような気がします」

では、ワーシップナイトの今後の課題は……と聞くと、「ここに来るようになってから洗礼を受けた仲間も多くいますが、それを目的としているという訳ではありません。クリスチャンではない人も大歓迎。誰でも気軽に来られる場でありたい」とのこと。普段からキャンパス内でのポスター掲示、Facebookページ、参加者から友人・知人への口コミ、新入生歓迎礼拝での告知などにより活動を案内しています。

「国際“基督教”大学に通っているからキリスト教の活動に興味はあるけれど、どこへ行けばいいの？ 誰に聞けばいいの？」と迷ったら、まずはワーシップナイトに飛び込んでみることをお勧めします。きっと温かく迎え入れてもらえますよ！

悩みや迷いの多い大学生という青春の時期だからこそ、神様と自分とのつながりの中から歩むべき道を見出すこと、そしてそれを共有できる仲間と語り合う場所があることが、とても大事なのだと実感しました。

DAY講演会講師の丹波望さん（1期　真ん中）と茅野徹郎さん（左）

テント企画「こども縁日」

美術部OB会支部の作品展示と、桜募金

グッズとワイン販売　原田なおみさん（25　ID81）とCadotの竹内さん

ヒーロー研究会のキャンパスツアー

26日JAZZライブの西本康朗（45　ID01）さんと河原崎豊さん

JICUF賞受賞団体がランチョンの際挨拶に

ICU Festival 2014

2014年ICU祭同窓会企画のご報告

2014年度のICU祭は、例年より1週間早い10月25日（土）、26日（日）に三鷹キャンパスにて開催された。
献学60周年記念事業も開催され、多くの同窓生が母校に戻ってきた。
ICU同窓会でも同窓生のためにさまざまな企画を行い、400名を超える同窓生がアラムナイハウスを訪れた。

文：永渕光恵（21 ID77）　写真：同窓会事務局

2014年度のICU祭は天候にも恵まれ、アラムナイハウスに多くの来場者をお迎えすることができた。同窓会としては多くの同窓生とその親族およびお仲間の絶大なる支援を結集して、２つの支部会（丸の内style支部、ICU女子会支部）、２つのライブ（ICU高校卒、ICU卒のミュージシャンによるライブ）、JICUF（Japan ICU Foundation）との会食、１期の丹波望さん（2014年DAY賞受賞者）と茅野徹郎さんというICUの大先輩によるトーク、ICUヒーロー研究会によるキャンパスツアーなどを行った。また、大学が行っている桜募金をさらに支援するために、美術部OB支部によるICU桜再生Projectのご紹介や募金の呼びかけも行った結果、２日間で約10万円もの寄付を集める事ができた。

もちろん、毎年の恒例行事になっている子ども向け企画（こども縁日）や、三鷹でカイロプラクティク院を開業している佃隆さん（44　ID00）による姿勢チェック、ICUグッズ＆ワインの販売、表参道のD館との異名をとるジュメイラ・オーナーの吉田繁美さん（24　ID80）による美味しい軽食の提供なども実施。結果、過去最多入場者400名をわずかではあるが上回る410名の入場者数を数えた。

毎年そうであるが、今年のICU祭同窓会企画を運営するために、多くの同窓生や関係者に多大なご協力を得ている。忙しい中、同窓会企画のために力を貸してくださった皆様にこの場を借りてお礼申し上げたい。

テント企画「チャリティ整体」

カフェで食品を提供してくださったジュメイラ吉田繁美さん（24　ID80）（左）と待井さん

JICUFランチョン

木工作家　千田哲史さん（38　ID94）の桜フォトフレーム

25日ボサノバ東輝美さん（ICU高校卒業）とMatsumonicaさん演奏

DAY講演会司会の三宅大作さん（50　ID06）

桜募金と食券売り場　長谷川攝さん（24　ID80）（左）と斎藤三穂さん（21　ID77）（右）

Dream Competition 2014

ドリコン2014、金賞は「ICUキャンパスを『虫の目』で見る」！

「アナタの夢に100万円」 ―同窓会が学生の夢を応援するドリームコンペは今年で10周年。総額100万円と同窓会からの多彩な支援を獲得すべく、今年もユニークな企画がしのぎを削った。

文：伊藤航（49 ID05）　写真：同窓会学生部

みごと金賞を射とめた鈴木さんのプレゼン

金賞受賞者の鈴木さんと木越同窓会会長

銀賞とJICUF賞のDebating Society

2014年度受賞結果

■金賞（賞金40万円）
・個人（鈴木　遥　60　ID16）
企画概要：国際基督教大学キャンパスを「虫の目」で見る

■銀賞（賞金20万円）＋JICUF賞（賞金2,000ドル）
・ICU Debating Society
企画概要：ICU Tournament ～高校生へのディベート支援～

■銀賞（賞金20万円）＋木越独歩賞（5万円）
・個人（百瀬　晃平　59　ID15）
企画概要：朽ちゆく桜を次の60年へ　ICU図書館に桜の板の看板を

■銅賞（賞金10万円）
・FUKUFUKU
企画概要：FUKUFUKU地域の交換会

■銅賞（賞金10万円）
・Weekly GIANTS Co.
企画概要：同窓会への年2回のThe Weekly GIANTS特別号の発送

昨年9月13日（土）、ICU同窓会主催の「ドリコン2014」決勝プレゼンテーションがアラムナイハウスで行われ、ICUキャンパス内に生息する昆虫を調査する企画「キャンパスを『虫の目』で見る」で応募した個人・鈴木遥さん（60　ID16）が金賞に輝いた。

「ドリコン」の愛称で親しまれているドリームコンペは、学生の「夢をカタチにする企画」に対して同窓会が賞金や各種支援を授与する企画。10回目を迎える今年は14つの応募があり、書類審査を経て8団体・個人が決勝プレゼンテーションに進み、熱い想いを審査委員にぶつけた。

審査は、「夢の大きさ」「実現性」「ICUや同窓会へのメリット」等を考慮した上で、同窓会役員が厳正に行う。結果、今年は右記5団体が受賞。いずれの企画も、独自の視点や課題認識に立脚し、ICUの魅力を高める挑戦だった。

金賞の鈴木さんは、昆虫調査を通じてICUの豊かな生態系を人々に再認識してもらうことを目指す。「ICUキャンパスは昆虫や動植物の宝庫。受賞のおかげで、点に過ぎなかった自分の夢が線や面に広がった。後輩にも道を作っていきたい」と喜びを語った。

銀賞は、高校生へのディベート支援を企画したICU Debating Societyとキャンパスの桜の廃材を書道に活かし図書館内看板を作る夢を語った個人・百瀬晃平さん（59　ID15）がそれぞれ受賞。ICU Debating Societyは、グローバルな企画に贈られるJICUF賞＊も受賞し、「頂いたご支援で必ずや高校生にディベートを広げたい」とコメント。また、百瀬さんは、木越純同窓会長（27　ID83）が新設した木越独歩賞も受賞し、「周りを巻き込みながら、夢の実現に向けて動いていきたい」と意気込みを語った。

銅賞は2団体。通常活動に加えて、同窓生への年2回の特別号の発送を提案したWeekly GIANTS Co.は、賞金を活用して印刷機を刷新する予定で、「38年の歴史がある紙媒体を後世に残すために、ドリコンで一致団結できた」と振り返った。思い入れのある服の交換会というユニークなリサイクル活動を企画・運営するFUKUFUKUは、「是非、FUKUFUKU ICUで検索して下さい！」と活動の発展を約束した。

同窓会は、受賞団体・個人に加え、惜しくも受賞を逃した方々に対しても、資金面だけでなく人脈や経験の提供による支援を行っていく。

＊JICUF賞=Japan ICU Foundation賞

Multilingual Natural Immersion

どんなことばにも開かれた心を育てる

ヒッポファミリークラブは、「ことば」で楽しむ家族の遊び場です！活動場所は全国にあり、赤ちゃんから大人まで、だれでもいつからでも参加できます。あなたもいろんなことばが飛び交う“多言語の公園”で、自然に話せるようになる楽しさを体験してみませんか？

多言語を学ぶ意味

大和田康之（国際基督教大学１期生）

私がこれからを担う真のリーダーシップについて必要だと思うのは「多言語を話す」というスタンスです。多言語を話すということは、「違ったことば、価値観を持った人を自分の中に受け入れる」ということ、「寛容」ということです。それは自分が人間としてより豊かになることです。

ヒッポではまず相手の母語を大切にしようというスタンスで多言語を育んでいます。そんな世界が広がっていくことに、ことばを学ぶことの本質的な意味があるのではないでしょうか。

ことばはボクらの音楽だ！
―マルティリンガル習得プログラム―

榊原 陽 著 / 明治書院 / 四六版・全248ページ / 定価 1,500円＋税

多言語活動の提唱者が、従来の外国語教育とは違った、具体的な多言語活動の体験と理論を、誰もが読めるようにまとめました。こどもが自然にことばを話せるようになること、多言語地域のこどもが自然に多言語で話すことなど、その仕組みと自然習得の方法がわかります。

世界中に友だちをつくろう！
自然と遊ぶ、仲間と遊ぶ

多言語自然キャンプ

小学生～大学生年代を中心に、多言語・多世代の人々が自然の中で活動し、国や文化の違いをこえて友情を育むプログラムです。

【国内キャンプ】（3泊4日 長野 小4～大人）
●雪の学校：雪の活動と多世代・多言語交流。
●森の学校：夏山体験と多世代・多言語交流。

【海外キャンプ】（1週間前後 8月開催）
●アジア青少年多言語自然キャンプ&ホームステイ
中１～大人。タイでの自然体験と現地家庭でのホームステイ。
●アジア青年多言語合宿＆ホームステイ
高１～大人 。上海の研修施設での合宿と現地家庭でのホームステイ。

hippo 一般財団法人 言語交流研究所 ヒッポファミリークラブ 0120-557-761 受付時間 平日9:00～17:30
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-2-10 青山H&Aビル3F TEL.03-5467-7041 http://www.lexhippo.gr.jp/
ヒッポ 検索

7A_Goods

同窓会グッズを紹介

同窓会グッズ一挙公開・誌上通販します!

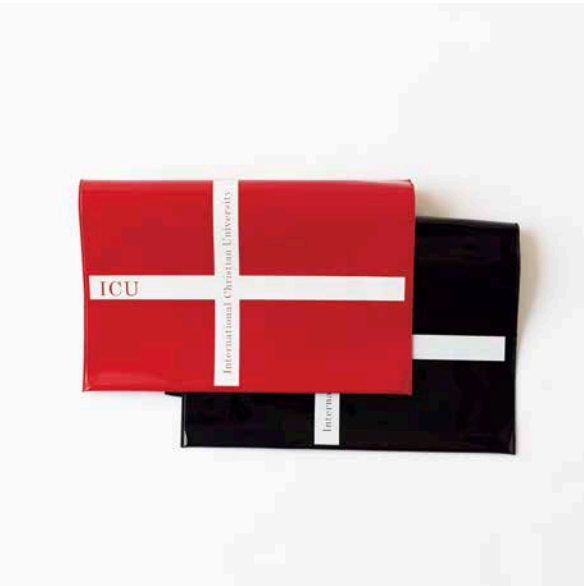
これまでにご紹介した同窓会グッズと、新作をすべて紹介します。
気になったのものは、事務局へご連絡いただければ通販可能。
この機会に、身に付けたり、使ったり、嗜んだりしてみてはいかがでしょうか?

文・野仲 裕子（本誌）　写真・一之瀬ちひろ（本誌）

スカーフ　3種類（香水・時計・桜）各2色　各¥5,000　シルク100%　縁手縫い。伝統横濱スカーフ社製。88cm×88cm

扇子（桜柄）　¥3,000　同窓生で書家の小杉海京（小杉卓 57 ID13）さんのデザインした桜が描かれています。

ネクタイ（校章柄）エンジ・紺・緑　各¥3,000
シルク100%。校章をちりばめたデザインです。

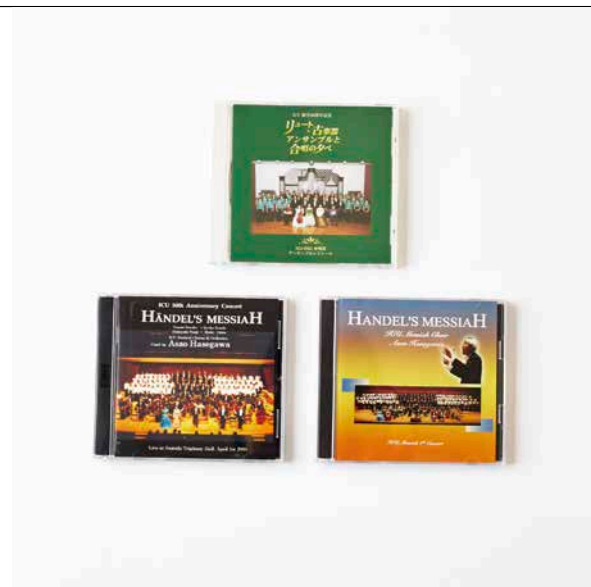


キャンパスクラッチ　赤・黒　各¥525 35cm×49cm

ICUロゴマグ　赤・青・緑　各¥1,000　美濃焼

ICUソングオルゴール/写真立て　赤・青　各¥3,000
手巻き式。8.5cm×9.5cm

ネクタイ（レジメンタル）¥3,000　シルク100%



CD（リュート）¥500/CD（メサイヤ第1回　2枚組）¥1,000/CD（メサイヤ第4回　2枚組）¥2,000

Tシャツ（本館・バカ山柄）サイズ XS/S/M/L/XL　¥1,500

ばか山（日本酒）¥1,650　同窓生（27期）が経営する酒造「久納酒造」の協力を得て作られた純米酒。
※三鷹市大沢のCadotさんで販売しています。学内では購入できません。

タンブラー　赤・青　各¥1,000　ハリーポッターでお馴染みのダン・シュレシンジャーさんの描いた教会の絵入り。

ロゴ入りゴルフボール（3個入り）　白・黄色　各¥1,000
（1ダースは¥3,800）Titleist NXTツアーエス

ICUロゴバッジ　¥2,000　フェルトに刺繍。
FAIRFAX社製。18mm×14mm

ピュアモルトボールペン　ベージュ・茶　各¥1,000
黒・赤２色のボールペンとシャープペンが合体した便利なペン。グリップ部分は100年の歴史のあるモルトウイスキーの樽から作られています。

Tシャツ（タブレット柄）サイズ XS/S/M/L/XL 青・緑・黒　¥2,000

Tシャツ（Can You See? 柄）サイズ XS/S/M/L/XL 白　¥2,000

ネクタイ（ワンポイント）¥5,000　FAIRFAX社製。シルク100%

桜材フォトフレーム　縦・横　各¥3,300　19.1cm×14.3cm。葉書サイズ
木工作家千田哲史さん（38 ID94）製作。

レターオープナー　白　¥300/教会柄便箋50枚綴　¥300/一筆箋　ピンク・黄色・青　8cm×17cm。30枚綴　各¥200/付箋（教会柄・アラムナイハウス柄）
6.5cm×6.5cm。50枚綴　各¥100

武蔵野クロス（ICUワイン）　赤・白　各¥1,080/武蔵野クロス（ICUワイン）
プレミアム　赤　¥2,160　同窓生夫妻の経営する南アフリカのニール・エリス・ワイナリーから届いたICUオリジナルワイン。
※三鷹市大沢のCadotさんで販売しています。学内では購入できません。

トートバッグ（枝柄）¥450　根来桜さん（57 ID15）のデザイン。ポリエステル製。30cm×39cm（持ち手含まず）底マチ3cm。A4が入ります。

ネクタイ（ストライプ）¥5,000　FAIRFAX社製。シルク100%

マフラータオル　ピンク・青　各¥1,000　20cm×110cm

名刺入れ　茶・黒　各¥1,800/名刺入れ　ピンク・白　各¥2,500
同窓会ロゴと大学名の入ったおしゃれな名刺入れ。名刺が30枚入ります。

教会柄マグ（フタ付き）¥2,000　美濃焼。
11期　野村彰男さんが描いた教会の絵です。

クリアファイル（教会柄・アラムナイハウス柄）各¥200
同窓会事務局スタッフの岡田路子さんのデザイン。透明。A4サイズ

アナグマワイン　赤・白　¥3,500/アナグマクッキー（泉屋製）¥1,000
※アナグマワインは、同窓会とオーストラリアでワイン商を営む同窓生のジョイントで生まれたワイン。ネット通販または、Cadotさんで購入できます。学内では購入できません。
※泉屋クッキーは季節限定販売です。次の製作販売は、桜祭り懇親会の予定です

ネクタイ（ニット）¥3,000　FAIRFAX社製

ピカタン2（手動充電式懐中電灯）　紫・オレンジ・グレー・緑　各¥500

ICUポロシャツ　サイズ XS/S/M/L/XL　紺・緑・黒　各¥2,500

同窓会グッズも、宿泊券もプレゼント !!

ICU同窓会はWELBOXと10月に提携しました。（終身会費納入者対象）
この度新規入会者も含めて、申し込んでくださった方は、
以下のプレゼントキャンペーンに応募できます。

抽選で豪華賞品があたります。

A 賞　東急ホテルハーヴェストペア無料招待宿泊券
B 賞　ICU ネクタイ、スカーフ
C 賞　ICU T シャツくまちゃんぬいぐるみ
D 賞　ICU マグカップ

この機会に、ICU同窓会WELBOXにぜひご加入ください。
様々な特典があります。
詳しくは、同梱の「ご利用ガイド2015年度版」をご参照ください。

同窓会グッズご購入希望のかた

商品名、個数、色、サイズ、送付先等を記載の上、ICU同窓会事務局（aaoffice@icualumni.com）までお申込みください。折り返し、事務局から振込先・金額をお知らせし、入金確認後、商品を発送させていただきます。

● ICU同窓会事務局　TEL&FAX: 0422-33-3320

※価格は税込です。　※送料については、大きさ、重さによって異なりますので、同窓会事務局にお問い合わせ下さい。
※写真につき、実際の色味とは異なる場合もございます。　※品切れの際はご容赦ください。
※学内では、三省堂・アラムナイハウス2Ｆ同窓会事務局でも購入できます。（アルコール類は除く）

アルコール類ご購入希望のかた

三鷹市大沢にある「Cadot」さん（〒181-0015　東京都三鷹市大沢3-8-5）で購入いただけます。直接お店に行けない方は、TEL&FAXでも注文を受け付けております。（送料別）

● Cadot カド　TEL&FAX: 0422-31-6854
● Cadotウェブサイト：http://members3.jcom.home.ne.jp/cadot/

7A_People 有村治子 (37 ID93) 国務大臣

各ジャンルで活躍の同窓生を紹介

文・写真：石井雅仁（本誌）

**昨年9月に発足した第2次安倍改造内閣で、
ICU同窓生として初の閣僚が誕生した。
ID93の参議院議員、有村治子さん。
女性活躍、行政改革などを担当する国務大臣として、
当選3回での抜擢となった。
衆院選公示翌日の12月3日に、内閣府の大臣室でお話をうかがった。**

ありむら はるこ
（ARIMURA, Haruko）

女性活躍・行政改革・国家公務員制度担当・内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全・規制改革・少子化対策・男女共同参画）取材時参議院議員

次元を越えた緊張感の中で ～大臣の横顔

価値観の異なる相手と渡り合う日常

有村さんは滋賀県愛知川町（現・愛荘町）出身。近江兄弟社高校を卒業後、学校推薦でICU社会科学科に進学した。父上は地元で県議会議長も務めた政治家。しかし有村さんの高校生時代は落選・浪人中で、「浪人の子どもは浪人できないと父に言われて」入学を決めたという。

「第4女子寮で、イニシエーションでは一度もはいたことがなかったミニスカートを、恥をしのんではきました。田舎で普通に暮らしてきた高校生が、寮生活ではノンジャパも含め価値観の違う人たちとも日々渡り合っていかなければならない。『すごいところに来た』と、最初は戸惑いました」

当時から政治に関心があったが「必ずしも政治家になりたかったわけではない」。という。入学後に熱中したのは、中学時代に自らが全国第2位に入賞した「高松宮（現・高円宮）杯全日本中学校英語弁論大会」の運営スタッフとしての活動。大会事務局のある大手町・読売新聞社の社員食堂にいりびたり「友だちからは『オフキャンパスの女』と言われていた」

卒論は西尾隆教授（行政学）の指導で「GHQの占領期における広報活動」について書いた。また、敬愛していたジャクリーヌ・ワシレウスキー教授（異文化間コミュニケーション）の強い勧めを受け、卒業後は米バーモント州のSchool for International Training大学院で開発教育、紛争解決を学んだ。

知名度ゼロの生活者として出馬

その後は日本マクドナルドで2年間、管理職対象の研修システム構築を担当。結婚し、青山学院大大学院博士課程在学中の2001年に30歳で転機が訪れた。自民党から参院選の比例代表候補にならないかとの打診。野田聖子衆院議員に手紙を書いたことがきっかけで話が進んだ。

当時は森政権の末期で、内閣支持率がわずか8%。党内では出馬予定者の辞退が続出し、候補者確保が難航していた。「若い女性で主婦、知名度はゼロの生活者。文字通り『お品書きの一つ』としての候補でありました。こういう時でなければ出馬の話はなかったと思う。たとえ自分が結果を出せなくても、2人目か3人目の人が政界に出てくれればと思っていた」

日本マクドナルドの藤田田社長（当時）から応援を受けたものの、全国をまわる選挙戦は想像を絶するものだった。「何をやっても文句を言われる。政策を訴えると『30歳のくせに生意気だ』となるし、ただひたすら頭を下げていると『選挙に出て政策を言わないなんて、お前バカか』と。サポートしてくれる秘書もいないし」

遊説先の駅のトイレで、何度も涙を流したという。この選挙は小泉純一郎首相の高い人気にも支えられ、自民党が復調。比例区では20議席を獲得し、有村さんは得票数党内19位で初当選を果たした。

出馬を決めた理由について、有村さんは「私たちの未来のことを決めるのだから、どこかの知らないおじさんがやっているより、若い世代でまじめな人が参画した方がいいと思った」と話す。議員バッジをつけてからは、靖国神社をめぐる問題や歴史教科書問題で極めて保守的な主張を鮮明にする一方、「マタニティーマーク」を全国に広める運動にも尽力している。

ICUで大きな宗教に触れて良かった

3カ月の大臣生活を「たばこを口にくわえさせられて、ガソリンのまかれたぬかるみを光のない中で歩かされるという、そういう感覚。今までにない緊張感」と振り返る。大臣の発言は重みが格段に違い、一言一句が報道記者にウォッチされている。「私はこれまで、自分の信念とか思想を自らの言葉で語ってきたが、今までとは違う次元に入ったのかと思う」とも。

現在、神道政治連盟などから支持を受ける有村さんは「なぜキリスト教の大学に？」と聞かれた際、「ICUで大きな宗教にふれたことは大変に良かった」と答えるという。「人間として当然のことをためらいなく、ごく自然にできる、博愛とかヒューマニティーを学んだ。緑のキャンパスで濃密な時間を過ごせたのも貴重だった」

「もう一つ。ICUの4年間で、英語が分からなくてもなんとかなるという度胸がついた。下手でも反論、コメントしないといけない。恥をかく場をいっぱい与えていただいた」

家庭に戻れば2人の娘を持つ母親でもある。

お孫さまへの『想い』を形にしませんか？

教育資金贈与信託〈愛称：孫への想い〉

「教育資金贈与信託」は、
30歳未満のお孫さま等への教育資金として
当社へお預け入れいただき、
当社はお孫さま等からの払出請求に基づき、
教育資金をお支払いする商品です。

●5,000円からお申し込みいただけます。
●贈与を受ける方は、30歳未満のお子さま、お孫さまのほか、ひ孫さまも対象になります。

教育資金としてしっかり管理
払い出し前に、三井住友信託銀行が教育資金のお支払いであることを確認します。
贈与される方の『想い』に応えます。

贈与額1,500万円まで非課税
【対象例】
学校等
そのうち学校等以外へのお支払いは500万円まで
学習塾・そろばん　水泳・野球　ピアノ・絵画　等

無料！
管理料
払出手数料

お問い合わせ・資料のご請求は
0120-988-494　受付時間 平日9:00～17:00（土・日・祝日および12/31～1/3はご利用いただけません）
孫への想い　検索
お問い合わせの際は「アラムナイニュースを見た」とお伝えください。

その人を信じて、その人に託す。Meet The Trust Bank
三井住友信託銀行

突撃! 気になるあの“メジャー”

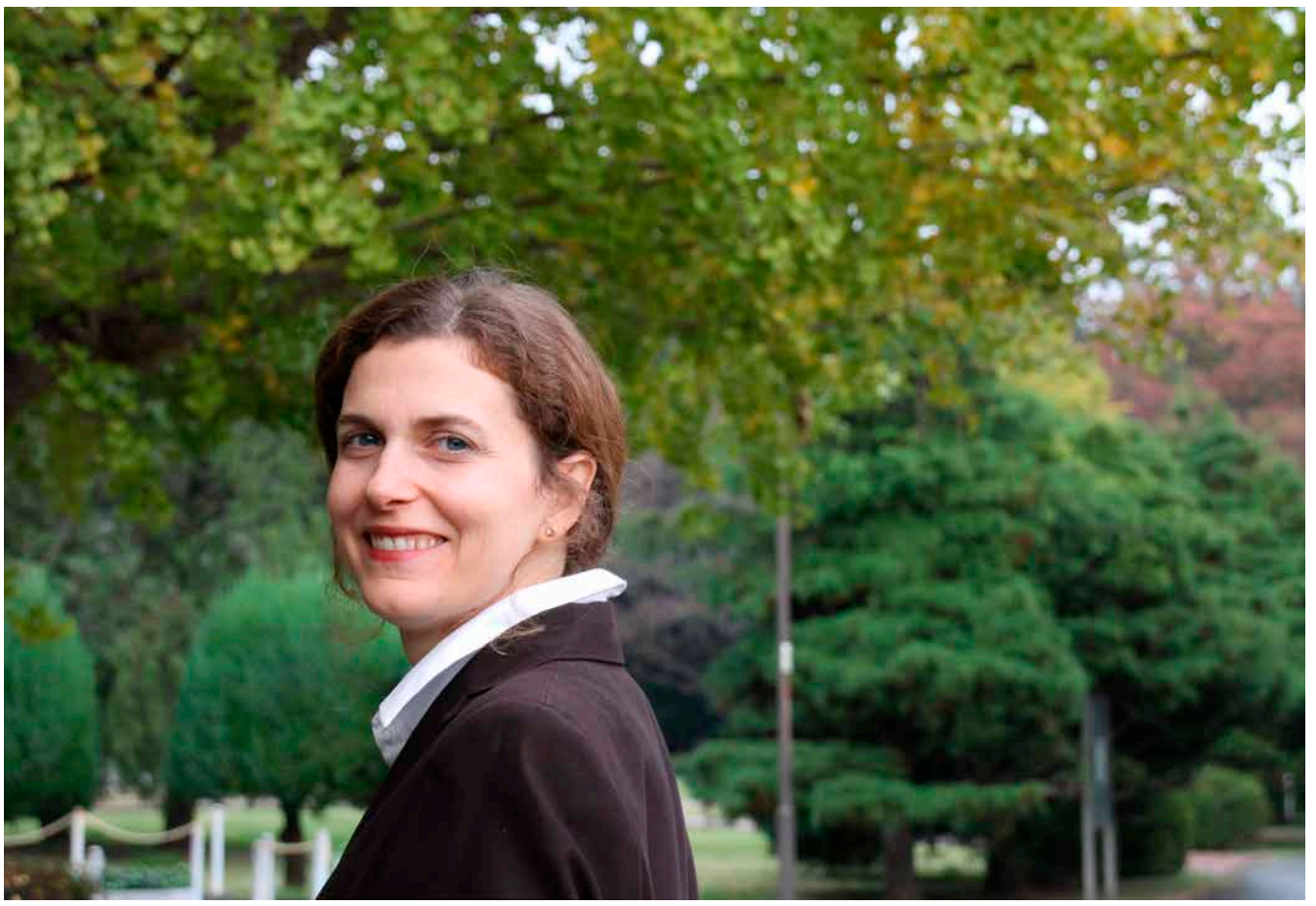
第10回　ヘザー・A・モンゴメリー上級准教授（経済学）

今回紹介するのは、経済学メジャー。
経済学というと市場や貨幣の動きを緻密に計算して分析する専門的な分野という印象がありますが、
専門性よりも学際的な学びを重視するICUの中ではどのように位置づけられているのでしょうか。
ヘザー・A.モンゴメリー上級准教授にうかがいました。

文：吉村光八・小林智世（本誌）　写真：小林智世（本誌）

モンゴメリー, ヘザー A.
MONTGOMERY, Heather A.

アメリカ、メリーランド州出身。ジョンズホプキンス大学にて学士（経済学）を取得後、ミシガン大学にて国際経済学・マクロ経済学を専攻、博士号（経済学）を取得。また、同大学に在学中、ICUに留学し日本語プログラムを修了。ジョンズホプキンス大学ポール・H・ニッツェ高等国際関係大学院ボローニャ校、アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターでも学ぶ。アジア開発銀行、JPモルガン証券勤務を経て、2007年ICU教養学部アーツ・サイエンス学科に着任。



一つの思考のフレームワークとしての経済学

経済学は、人間や組織の行動をインセンティブ（誘因＝動機付けとなる要因）への反応という側面から科学する学問です。私たちの行動は、価格が安い、より良いサービスが受けられる、支払われる賃金が高い……といった様々なインセンティブによって左右されます。インセンティブと意思決定の関連を分析することで社会や人間をより深く理解するとともに、そこから得られた考察を用いてより良い市場のあり方や政策を模索することが、経済学の目指すところです。

経済学的な考え方を身に付けることで、学生は「インセンティブと意思決定」という一つの思考のフレームワークを使って事象を捉えられるようになります。これは思考のための武器を一つ手に入れるのと同じこと。私たちは世の中で起きている様々な事象に対して意見をもつことを求められていますが、自分の中に経済学的な思考のフレームワークがあれば、そこに立脚して自分の意見を組み立てることができるのです。

このフレームワークへの理解が、ICUのリベラルアーツ教育という環境の中で培われることには大きな意味があります。ICUでは様々な分野の授業を横断的に受講することができ、学生たちは同じ問題やトピックを扱ってもアプローチの違いで全く違う答えがでてくることを実感します。つまり、それぞれの研究分野にそれぞれの思考のフレームワークがあり、経済学の「インセンティブと意思決定」というフレームワークは絶対ではないということを意識しながら、経済学を学ぶことができるのです。こうして身に付いた経済学的なフレームワークは、他分野の思考のフレームワークと組み合わさることで、さらに力を発揮するのではないでしょうか。このような素晴らしい環境の中で、自分の確固とした意見を組み立てる手段として、経済学を実践的に用いてほしいと考えています。

理論と実践から成る「樹」

経済学メジャーで開講されている授業には、「マクロ経済学原論」「ミクロ経済学原論」「計量経済学」などの理論の学習に重きを置くものと、「国際金融」「環境経済学」「マイクロファイナンス」などの理論の応用に焦点を当てるものがあります。経済学の核となる考え方を理解することと、実社会への応用のされ方をバランスよく学べるようにするのが狙いです。これを説明する時は、よく樹に例えています。理論系の授業は幹、応用系の授業は枝葉、両方を理解して初めて経済の全体像が見えるのです。また、講義は難易度によって初級・中級・上級に分かれており、段階的に履修することによって理解を深められるように考えられています。

私は授業をする際、学生がアメリカの大学と同程度の経済学を学べるよう、努力しています。世界で通用するスキルを身に付けてほしいと思い、授業でのディスカッション・プレゼンテーション・提出物はすべて英語で行うよう指導しています。また、授業の中で、学生からの質問に答える時間は必ず確保しています。教授と学生の相互のコミュニケーションを大事にすることで、学生が授業の中から触発され、なにかを得られるようにするためです。学生達には、ぜひとも日本語・英語関係なく、いろいろな授業をとり、自分の糧にしてほしいです。

遠慮がちな日本人学生―経てきた教育の違い？

ICUで授業をしていて気付いたのは、日本で教育を受けた学生と、海外・インターナショナル校で教育を受けた学生の違いです。どちらが良い悪いということではなく、経てきた教育の違いが授業への取り組み方に現れていると感じます。

筆記テストをすると、日本で教育を受けてきた学生の方が成績が良いことが多いです。しかしケーススタディーを取り入れた授業でグループディスカッションをするような時は、海外・インターナショナル校出身者の方が積極的に発言します。限られた情報しか与えられていなくても、そこから自分の意見を組み立てられるのです。一方で、日本の教育課程を経た学生の場合は、自分の意見が確立できるまで何も言わなかったり、確固とした自分の意見を持っていても自信がなさそうに発言する場面が目立ちます。これは日本の組織文化により形作られる「謙虚さ」によるものが大きいと思っており、決して悪いことではないのですが、人生には自分の見解を自信ある態度ではっきり述べなければならない時もあります。「自分はまだ意見を言っていい立場にない」と遠慮せず、意見があるなら積極的に発言してほしいです。

ただ、「日本は世界の一部でしかない」という意識を持っている学生が多い点は素晴らしいと思います。それぞれの学生が、学びによって培った広い視野で、社会に貢献してくれることを願っています。

経済学メジャーのデータ

●開講されているクラス（一部、2014年現在）
経済と経済学
マクロ経済学原論
ミクロ経済学原論
計量経済学
ゲーム理論
金融、貨幣と金融市場
環境経済学
産業組織論
国際貿易　など

●担当教員（2014年度現在）
黄 仁相　HWANG, Insang
稲葉 祐之　INABA, Yushi
岩井 克人　IWAI, Katsuhito
海蔵寺 大成　KAIZOJI, Taisei
金子 拓也　KANEKO, Takuya
近藤 正規　KONDO, Masanori
宮崎 修行　MIYAZAKI, Nobuyuki
モンゴメリー , ヘザー A.　MONTGOMERY, Heather A.
小川 昭　OGAWA, Akira
八代 尚宏　YASHIRO, Naohiro

TA_News

同窓生の関わるニュースあれこれ

文：野仲裕子、栗山のぞみ（本誌）

昨秋以降、受賞、出版などおめでたい情報が次々と舞い込みました!
また、海外遠征を含む大規模なリユニオンのお便りも。
ICU同窓生の活力あふれるニュースをお届けします。

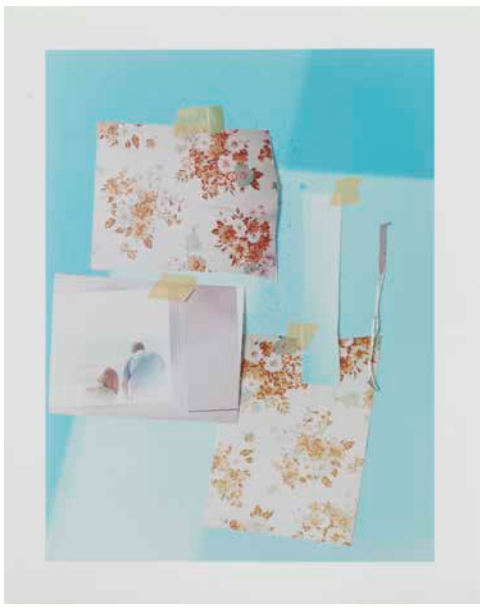


photo ICHINOSE,Chihiro

一之瀬ちひろさんがJAPAN PHOTO AWARD2014受賞

長年、本誌でも撮影を担当していただいている写真家の一之瀬ちひろさん（42 ID98）が昨年、JAPAN PHOTO AWARD 2014を受賞されました。650名の応募者の中から4名が選ばれ、一之瀬さんは、審査員を務めるアートフォトマガジン「IMA」のエディトリアル・ディレクター、太田睦子さんが選ぶ賞を受賞されました。今後、受賞作品がまとめられた冊子が、海外で行われるアートフェアや美術館各所で配布されていくそうです。

受賞作品は「KITSILANO」。2012年、銀座のニコンサロンで同名の写真展が行われ、空間を生かしたインスタレーションのような展示は、観る人を穏やかでゆったりした気持ちにさせてくれました。優しい光が差し込む柔らかな色合いの写真の数々と、女性らしい視点で切り取られた日常が詰まった、造本にもこだわったアート作品のような一冊です。この写真集のデザインを手掛けた小熊千佳子さんとは、ユニットPRELIBLIとしても活動されており、2014年には、「FRANCISCO」という写真集も出版されています。雑誌や書籍でもご活躍なので、見かけられた際は、ぜひ一之瀬さんの撮る優しい写真の世界に触れてみてください。

■JAPAN PHOTO AWARD ウェブサイト：
http://japanphotoaward.com/
■一之瀬ちひろさん　ウェブサイト：
http://www.freaksphotos.com/chihiroichinose/

一之瀬ちひろ（42 ID98）

いちのせ ちひろ（ICHINOSE, Chihiro ）
1998年、人文学科美術史専攻卒。馬場道浩氏に指事後、2004年渡英、翌年帰国後フリーランスに。作品を発表するかたわら、書籍、雑誌、広告の撮影に携わる。現在ICU大学院にて音楽史を専攻している。

奥泉光さん　第50回谷崎潤一郎賞受賞　～受賞作『東京自叙伝』のご紹介～

アラムナイニュースの第116号「本を読もう！」特集の座談会にも登場してくださり、卒業生、在校生にはすでにおなじみの作家、奥泉光さん（24　ID80）が、先ごろ出版された『東京自叙伝』（講談社）で、2014年度の第50回谷崎潤一郎賞（中央公論新社主催）を受賞されました。

『東京自叙伝』の主人公は、なんと東京の地霊！？　明治維新から東京大空襲、バブル崩壊、地下鉄サリン事件、そして東日本大震災後まで、次々と何人もの人に取りつきながら、無責任に時代の波間を流れていく。その金科玉条は、「なるようにしかならぬ」であり、それが「東京を首都と仰ぐ日本の主導的原理」だとうそぶくのです。この「日本人論」「都市像」は、ICUが提唱するリベラル・アーツから生み出したいものとは対極にあるように思えます。しかし、「○○も私だ」と主人公がいうとき、終盤になればなるほど、その「私」に読者である自分が含まれないとは否定できなくなってくる……。奇想天外な話なのに、いえ、だからこそ、個とはなにか、生きるとは何かを考えさせられます。あ、モチロンそんなに生真面目に受け取らなくとも、エンターテインメントとしても極上ですので、構えず読めることは保証いたします！

奥泉光（24　ID80）

おくいずみ ひかる（OKUIZUMI, Hikaru）
1956年、山形県生まれ。86年『地の鳥天の魚群』でデビュー。94年『石の来歴』で芥川賞を受賞。近著に『シューマンの指』、『虫樹音楽集』、他。野間文芸賞、芥川賞等の選考委員も務める。近畿大学国際人文科学研究所教授。

本誌にも登場の石田由香理さんが自身の体験を出版

現在英国の大学院で学んでいる石田由香理さん（57　ID13）と教育学・言語教育デパートメントの西村幹子上級准教授の共著『〈できること〉の見つけ方～全盲女子大生が手に入れた大切なもの』が昨年11月、岩波ジュニア新書（岩波書店）で出版されました。

石田さんは在学中にAN117号「ICUとバリアフリー」特集に登場してくださった方。「聡明とはこういうことか！」と、記者は、その指摘の鋭さ、表現の的確さに舌を巻いたのですが、当時はまだまだ開花途中、本書に彼女自身が書いているように劣等感に悩むこともしばしばだったとは！

本書では、彼女が他の人の何倍も何倍も努力してきたこと、「負けまい」という思いで頑なになっていたこと、その後３年生終了時に１年間休学してフィリピンに留学し、出会った人々の優しさに触れ、相手を、自分を受け入れ、同時に肩の力が抜けていったことなどが率直に語られます。

彼女が見つけたできることの１つは「誠実でいること」。これは私たちにも〈できること〉の第一歩です。ここを基点に石田さんは具体的な〈できること〉をどんどん見つけ、以前にも増して自由に羽ばたいていきます。はたして私たちは、自分自身に、相手に「誠実でいること」ができているでしょうか。

西村先生のパートではICUの理念や授業の様子も生き生きと描かれており、ICU入門本としてもお薦めです。

石田由香理（57　ID13）

いしだ ゆかり（ISHIDA, Yukari）
1989年、大阪府生まれ。和歌山県立和歌山盲学校、筑波大学附属視覚特別支援学校卒業後、ICU入学。フィリピンへの留学を経て2014年に卒業。現在英国サセックス大学教育系大学院修士課程在籍。

上：2014年8月7日、遠征初日のカナディアンロッキー Moraine Lake 展望台にて。ワンゲル創部50周年記念Tシャツを着て遠征参加者全員で記念撮影。この後1週間学生隊と共にカナディアンロッキーの自然を満喫しました。
下：2014年10月19日、アラムナイハウスにて開催した創部50周年記念総会集合写真。

ワンゲル創部50周年

文：山口貴正（26　ID82）　写真：ワンダーフォーゲル部

ワンダーフォーゲル部は創部50年を迎え、去る10月19日にアラムナイハウスにて記念総会を開催しました。OBOG、学生部員、さらに顧問の西尾隆教授をお迎えし、総勢83名が出席しました。ID68創部メンバーによる寸劇、学生部員による50年史の発表、国内外メンバーとのスカイプ通信等々盛りだくさんの内容に加え、卒業以来久々に会う仲間と旧交を温めたり、50年分の山行アルバムを手に思い出を語り合ったりと、それぞれの心に残るひとときを過ごしました。半世紀にわたり活動してきたことに感慨を深くするとともに、これからもつながりを大切にしていきたいと胸に刻んだ総会でした。

OBOGは現在260名を超え、秋のハイキングと忘年会を恒例行事とし、10年の節目ごとにイベントも実施してきました。50周年記念行事として、昨夏、カナディアン・ロッキーに遠征、学生隊の活動は1カ月に及び多数の山頂を制覇、途中からOBOG隊が加わり、幅広い世代でカナダの自然を満喫しました。

ウェデイング・レセプション承ります
ご予算に合わせ、お料理のご注文に応じます。
同期会・サークルのお集まりなどのケータリングも、
ぜひご相談・お問い合わせください。
東京ケータリング（株）　ＩＣＵ食堂
TEL&FAX 0422-33-3519　携帯 080-3117-3203
e-mail; tck.icu-shokudou@chorus.ocn.ne.jp

翻訳・通訳
皆さまに支えられて26年…
EXIMのモットー
● 読みやすい翻訳
● 心のこもった通訳
あらゆる分野で
国際コミュニケーション活動を
サポートしています。
同窓生 10%割引

日本外国特派員協会会員／東京商業会議所会員
翻訳・通訳・制作（デザイン・印刷）
●経験豊富な翻訳者、通訳者募集（英語、その他言語）
（株）エクシム・インターナショナル
EXIM INTERNATIONAL, INC.
☎03-3431-2118
URL : http://www.exim-int.com/
東京事務所 〒105-0013 東京都港区浜松町2-2-15 ゼネラルビル3F
TEL 03-3431-2118　FAX 03-3431-2120
E-mail : tokyo@exim-int.com
横浜事務所 〒232-0063 横浜市南区中里2-14-5
TEL 045-721-4800　FAX 045-721-5165
E-mail : yokohama@exim-int.com
President 永島 克彦（14期）　Advisor 比奈地 康晴（14期）

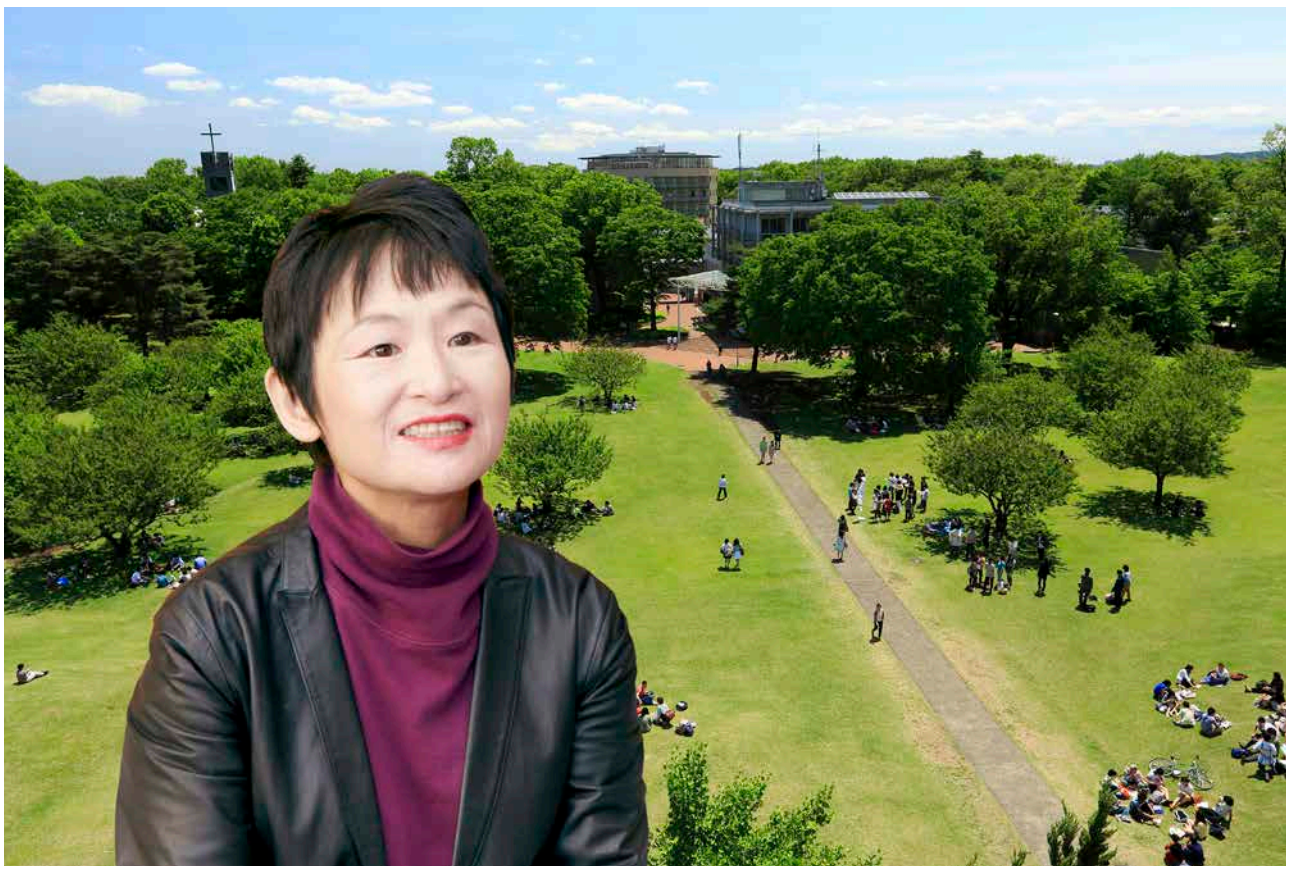
From the University

President's Message

大学のページ

2014年9月、本学の国際化への取組み「信頼される地球市民を育むリベラルアーツのグローバルな展開」が、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」に採択されました。2013年に献学60周年を迎え、次の60年を見据えながら「世界に開かれた学生選抜制度の構築」「学生と教員の統合的な支援体制の構築」「グローバル・リベラルアーツモデルの構築」の3つを柱に取り組む本事業について、日比谷学長からのメッセージをお届けいたします。

In September 2014, the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) chose ICU's *Creating Responsible Global Citizens Through Global Liberal Arts Education* as a Top Global University Project. Having commemorated our 60th Anniversary in 2013, we will undertake three initiatives for this project over the next ten years: establishing a student admission system open to students from around the world, creating an integrated support system for students and faculty, and building a model for global liberal arts. This is President Junko Hibiya's message about the project.



ICU's Mission

国際的社会人としての教養をもって恒久平和の確立に資する有為の人材を育成する

The cultivation of superlative individuals, who have been educated as internationally minded citizens, as well as the making of contributions to lasting peace.

信頼される地球市民を育むグローバル・リベラルアーツへ
Creating Responsible Global Citizens through a Global Liberal Arts Education

教育改革 Academic Reform
世界に開かれた学生選抜制度の構築
Establishing a student admission system open to students around the world
・春入学と秋入学の相互乗り入れ　・日英バイリンガル教育
・Flexible admission with spring / autumn entrance
・Bilingual education in English and Japanese

教育力向上 Improving Education
学生と教員の統合的な支援体制の構築
Establishing an integrated support system for students and faculty
・「学修・教育センター」（CTL）設置
・Center for Teaching and Learning（CTL）

さらなる国際化 Further Internationali-zation
グローバル・リベラルアーツモデルの構築
Building a model for global liberal arts
・「国際」と「宗教」　・海外修士5年連携プログラム
・"Internationalization" and "inter-religious understanding"
・Collaboration with partner schools abroad for a five-year bachelor and master's degree

次の10年　The next decade

献学時の理念を21世紀の世界にふさわしい形で

2013年に人間で言えば「還暦」にあたる献学60周年を迎えた本学ですが、ちょうど次の60年に向けた最初の年にあたる2014年9月に「スーパーグローバル大学創成支援事業（タイプB、事業期間10年）」（以下、SGU）に採択されました。SGUでは、「信頼される地球市民を育むリベラルアーツのグローバルな展開」を目的に、3つの柱を立てています。昨今の社会のグローバル化とともに環境が激変するなか、今回の採択は、献学時の理念を21世紀の世界にふさわしい形で具現化する絶好の機会であると捉え、事業を推進しています。

世界に開かれた学生選抜制度の構築

まずSGUの第１の柱は、世界に開かれた春入学と秋入学の制度です。これまでは、日本の教育制度で学んだ人を4月に、海外の教育制度で学んだ人を9月に受け入れてきましたが、グローバル化が進んだ今日では、やや窮屈になってきました。学生の国籍や言語習得状況が多様化して、「日本人でも海外在住経験が長く日本語が不十分な日本人学生」や「英語を母語としない外国籍学生」がいます。そこで2017年（予定）より、学生が自分の言語環境や教育履歴に合わせて、春と秋のどちらでも入学できるような選抜制度を段階的に設けます。

これは、受験機会の複数化という観点からも、日本の入試制度の改革につながります。本学独自の選抜制度は、これまでも高い評価を得てきました。60年近く続けている秋入学は、事前に来日する必要のない書類選考であり、春の一般入学試験には、他大学で困難とされる適性や到達度を計る試験もあります。今回はそれをさらに改革して、21世紀の日本にふさわしい入学者選抜モデルを提示します。また、これまでは、春入学の学生に徹底した英語教育を、秋入学の学生に徹底した日本語教育を行ってきましたが、新しい制度では、学生の言語習熟度に合わせて春秋ともに日英のどちらの語学プログラムでも履修できるようにします。

本学では、専門科目を日英別々のコースにわけません。英語だけで卒業できるプログラムも設けません。日本人と外国人が別々に学ぶのではなく、入学者全員が、どちらの言語でも高度な学問的ディスカッションに参加できるようになってほしいから

Promoting Our Founding Philosophy in Ways Befitting the 21st Century

In 2013, ICU celebrated its 60th anniversary, a felicitous event on a par with the Japanese tradition of celebrating one's sixtieth birthday (*kanreki*, a full cycle of the Chinese zodiac). As we embark upon our next sixty years, it is auspicious that in September 2014, MEXT chose as a Top Global University Project, ICU's Creating Responsible Global Citizens Through Global Liberal Arts Education (Type B with a duration of ten years, hereinafter referred to as SGU). We will implement three initiatives for this project. As we adapt to the sea change in society due to globalization, this is a superb opportunity to promote our founding philosophy in ways befitting the 21st century.

Establishing a Student Admission System Open to Students Around the World

Our first SGU initiative is the admission system for students from around the world for entrance in April and September. We have been accepting students completing secondary education in the Japanese system in April and others from international settings in September. To meet the demands of globalization, we need a more flexible system to accommodate applicants from various backgrounds. Students come from diverse linguistic backgrounds and secondary schools, including Japanese nationals who have lived abroad for most of their lives with inadequate ability in their mother tongue, and foreign nationals whose mother tongue is not English. Starting AY2017, We will incrementally develop a system under which students will be able to enter either in April or September and take Japanese and/or English language courses in accordance with their linguistic background.

This new system will provide students with multiple opportunities to apply for entrance in a given year, which could spur reform in the admissions systems at Japanese universities. Our unique admissions system has been held in high esteem since its foundation. The document screening system for September students allows them to apply without coming to the ICU campus. We have also been able to measure academic aptitude in our general admissions test for students entering in April, a feature that was deemed difficult with entrance examinations implemented at other universities. We will make adjustments in the system to offer a model befitting Japan in the 21st century. We have offered thorough English education for students entering in April and thorough Japanese

です。同一の授業の中で、日英両語が自由に交わされ、異なる背景に育った者との出会いが起きることで、自他に対する批判的思考に目覚める。それが、バイリンガリズムによる本学の「グローバル・リベラルアーツ」です。

学生と教員の統合的な支援体制の構築

第２の柱は、学修・教育センターの設立です。このセンターは、これまで学内のさまざまな部署が担ってきた学修や教育の支援機能を集約し、学生と教員の双方を一元的に支援する組織です。日本人学生、帰国生、英語を母語とする学生、日英以外を母語とする学生など、多様な言語背景をもつ学生に対応するためには、カリキュラムを充実させるだけでは不十分です。授業時間外に一人ひとりの学修を支える大学全体での仕組みが必要になります。センターでは、学修目標達成のためのアカデミックプランニングの支援や、学部生・大学院生の隔てなく個々の言語状況に応じたライティング指導を実施します。また、学生だけでなく、FDを含む教員育成、ICTを活用した授業運営などについてもきめ細かに支援します。新任教員はそこで本学の教育制度を組織的に学び、ベテラン教員もまた新たな授業形態を模索できます。これらすべてで多様な学生を迎える本学全体の教育力を向上させます。

グローバル・リベラルアーツモデルの構築

2014年、本学はGlobal Liberal Arts Alliance（GLAA）のメンバーになり、今後GLAAを通じた新たな取組みを計画しています。例えば、来年から開始されるGlobal Scholars Programがその１つです。これは学生が3, ４年次にかけて2つの地域の加盟大学へ留学するというもので、米国とサウジアラビア、スイスと香港など、多様な留学先の組み合わせが可能です。3つの社会・文化を経験することによって、広く国際的な視野を持つ人材を育てます。また、来年の夏に初めて開催されるInternational Development Summer Instituteに本学の学生を派遣することや、加盟校が共同で運営するGlobalization Studies Majorも設けます。この専攻は、通常の国際関係学科のような、経済・政治・テクノロジーなどにまたがった学際的な教育だけでなく、特に「グローバル化の与える影響」に焦点をあてた教育を行います。教育方針を加盟校が共同で決定するのが特徴で、将来的には、学生が必修科目を他のGLAA加盟校で受講することも可能にします。これらのほか、2010年より本学と密接な連携関係にあるMiddlebury Collegeの大学院であるMiddlebury Institute of International Studies at Monterey（MIIS）との間で、本学学士号とMIIS修士号を５年で取得するプログラムを設ける予定です。

今後の目標

SGUの取組みにおいては、数値目標も掲げています。献学時から全員必修となっている卒業論文ですが、現在英語で論文を執筆する学生は全体の28%です。これを10年後には45%まで引き上げます。その他、外国語による授業科目数も現在の17%から40%にします。この数値目標の実現に向けては担当部署毎の年次の管理・検証を徹底し、SGU全体としては先に2020年度にむけ立案した本学の大学中期計画と密接に連携させながら、「信頼される地球市民を育む」大学としての将来の道を着実に築いていきます。

education for those entering in September, but the new system will allow students to take either program in accordance with their needs.
At ICU we do not separate specialized courses by the language they are taught in. Neither do we have programs that can be completed solely in English. This is because we want our students from the international community to study together and participate in high-level academic discussions in both English and Japanese. By using both languages in class, students interact and absorb different cultures, providing them with a foundation for critical thinking. This is the essence of global liberal arts at ICU based on bilingualism.

Integrated Support System for Students and Faculty

The second initiative is the establishment of the Center for Teaching and Learning.
The center will integrate educational functions previously handled by different offices to create a centralized framework to help both students and faculty. To support students with various backgrounds, including Japanese students, returnees, those whose mother tongue is English, or one other than Japanese or English, it is insufficient to only offer a substantial curriculum. We need a university-wide structure that can provide individual support for students outside of class hours. The center will help students plan a course of study to meet their learning objectives and provide writing instruction for both graduate and undergraduate students in accordance with their language ability. Faculty will receive help in faculty development and classroom management using ICT (Information and Communication Technology). New faculty can acquire a comprehensive view of the educational system at ICU, while senior faculty can explore new pedagogical approaches. These measures will improve ICU's educational ability to handle students from differing backgrounds.

Building a Model for Global Liberal Arts

In 2014, ICU joined the Global Liberal Arts Alliance (GLAA). It has since initiated new projects in collaboration with other GLAA schools. One is the Global Scholars Program that will be launched in 2015. Juniors and seniors will study at two GLAA member universities in two regions, for example the U.S. and Saudi Arabia, or Hong Kong and Switzerland. Students will immerse themselves in three cultures and societies during their years at ICU and acquire broader perspectives. We also plan to send students to the International Development Summer Institute in early summer 2015 and establish a Globalization Studies Major that will be jointly organized by GLAA schools. This will not only feature interdisciplinary studies in an international relations major typically straddling economics, politics, and technology, but also lay emphasis on the effect of globalization. GLAA members will jointly decide on the educational philosophy of this major. In the future, students will be able to take compulsory courses at other GLAA schools. Middlebury Institute of International Studies at Monterey (MIIS), a graduate school of Middlebury College with which ICU has had a close partnership since 2010, will offer a five-year BA/MA MIIS course for which ICU courses will be recognized as undergraduate prerequisites.

Future Goals

We have set numerical goals for our SGU project. At present 28% of the seniors write their compulsory senior thesis in English. We will raise this to 45% in the next ten years. We will increase the percentage of courses taught in English from 17% to 40%. The offices in charge will thoroughly review the system every year and make appropriate changes in close coordination with the SGU project in order to realize our goal of Creating Responsible Global Citizens Through Global Liberal Arts Education for the future of ICU.

那須キャンパス太陽光発電事業所建設のお知らせ

本学は、栃木県那須町に有する那須キャンパスの遊休地の一部（36,400㎡、那須キャンパス全体の約4%）を活用して、2015年4月から「太陽光発電事業」を開始します。

事業の目的：
- CO^2削減による環境負荷低減への取組みの一環
- 遊休資産の有効活用
- 本事業により生じる収益を教育研究活動に還元

事業概要：
- 場所：学校法人国際基督教大学 栃木県那須キャンパス
- 発電出力：約2.36MW
- 年間発電量：約240万kWh

（一般家庭約700世帯の年間電力消費量）

詳細については、大学WEBサイト（http://www.icu.ac.jp/about/public/press/docs/20141204.pdf）でご確認ください。

Construction of a Solar Power Plant at the ICU Nasu Campus

As of April 2015, we will launch a solar power generation project utilizing idle assets on our campus in Nasu, Tochigi Prefecture (36,400㎡, approximately 4% of the campus).

Project objectives:
- Reduce environmental impact by CO^2 emissions
- Utilize idle assets
- Pass on revenue from the project to educational and research activities

Project overview:
- Location: ICU Nasu (Tochigi Prefecture) Campus
- Generating capacity: Approx. 2.36 MW
- Annual output: Approx. 2.4 million kWh (equivalent to that used by 700 households per year)

For details, please consult the ICU website.
http://www.icu.ac.jp/about/public/press/docs/20141204.pdf

2015年度「献学60周年記念事業」

2011年から2015年までの5年間を献学60周年記念事業期間と定めて様々な事業を展開してきた60周年記念事業も、期間終了まで余すところ1年となりました。2015年度は、60周年記念事業期間の終了後に引き継がれるイベントに絞って継続性を意識し、ICUの軌跡を記録に留める作業を中心とした事業を企画しています。

● 献学60周年記念礼拝

2015年6月2日（火）
13:15 ～（大学礼拝堂）
説教者に2013年7月に第12代Hope College学長に就任したDr. John C. Knappを迎えます。1892年に創立した私立のリベラルアーツカレッジHope Collegeはミシガン州ホランダに位置し、少人数教育、またChristianityを掲げる点でICUと似ています。Dr. Knappは、倫理学および宗教学の専門家の立場から、常に高等教育と倫理というテーマを意識し、高等教育の構成員に問いかけています。

● ホームカミング

ICU祭と同日開催の“ホームカミング”。2013年は現職の3人の先生による特別講義でしたが、質問の時間には“出席”した“かつての学生”による思い出話も披露されて大変好評でした。2014年は、シンポジウム「世界平和実現の道筋」を開催し、ICUの果たすべき使命と卒業生は何をなすべきかを熱く語り合いました。そして2015年ホームカミングは、60周年記念事業期間終了後にも末永く継続していく形を模索しながら、再びICUの教員を中心とした授業形式で企画しています。

● オーラルヒストリー

60年前のICUを今に語り継いでいただき、記録に残していく企画を今年も続けます。

● 国際基督教大学歴史資料室展

2013年に開設された国際基督教大学歴史資料室では、献学60周年記念事業の一環として、「歴史資料室開設企画展―ICU図書館の60年―」（2013年）、「歴史資料室企画記念展『幻なければ民滅ぶ』―湯浅八郎とICU―」（2014年）を開催。2015年は、献学前後に多大な貢献をなした複数の人物を取り上げた特別展示を計画しています。

From The Alumni House

アラムナイハウスから

2期生会の報告

文：松本吉見（2）

恒例の２期生会が去る10月23日午後、新宿のレストランで開催されました。本年入学後60周年に当たることもあり、会合に先立って文集を作成し、発行しました。この文集には、ICU発足直後の学生生活やICUから受けた恩恵などについて、54名が執筆した珠玉の大変面白い文章が集録されています。（ご興味があれば、同窓会事務局や大学図書館などでお読み頂けます。）

60年というのはいわば還暦に当たり、また従来の幹事団も本年でリタイアすることにしたため、長年に亘る２期生会も今回をもって幕を閉じることとなりました。

当日は、米国から糠沢治、藤本篤子、ウイリアムズ弘子の諸兄姉が来訪されるなど総勢34名が参加。

歓談と恒例の全員スピーチにより大いに盛り上がり、思い出に残る会合となりました。

三期会報告

文：棟居勇（3）

雲一つないような快晴の下、11月14日、会場の小石川後楽園に32名が参集し、三期のクラス会を楽しみました。今年は海外からはニューヨークからの松尾好郎くんのみ、少し寂しく思われました。

この度は、食事を中心としたパーティーが園内「涵徳亭」で午後１時と設定されましたが、庭園の散策も加えようと午前11時からオプションの形でミニツアーが計画されました。三々五々集まった21名がボランティアガイドの案内を得て、２班にわかれ、水戸徳川家、特に水戸光圀ゆかりの名園、“回遊式築山泉水庭園”の散策を約１時間半満喫しました。 午後１時からパーティー。昨年来亡くなった岩倉みどりさん、和田哲郎くん、二人の級友を覚えて追悼・黙祷のひと時を持ち、世話人の一人松宮丞二くんの音頭で乾杯、そして涵徳亭美都屋の懐石弁当の御膳を一同でゆっくり、歓談しながら、楽しみました。世話人になりながら欠席の山形・酒田在住の橋本裕子さんからの山形の銘酒の差し入れもありました。茶菓類の差し入れもあり、欠席の大竹幸一郎くんが、自宅付近で摘んでつくった素敵な四葉のクローバーの栞を出席者一同にプレゼントしてくれたこともうれしい出来事でした。

今年は、特別なスピーチはプログラムに計画されませんでしたが、ほんとうに久しぶりに出席した畑山安正くんには近況を語ってもらい、あとは自由歓談で、時を過ごしました。

会場をもう少し動き回り、いろいろな人と話ができたら、もっとよかったかもしれないという思いを抱きつつ、よい会ができたのではないかと思います。

ボストン支部会報告

文：増本朱華（50　ID 06）

ボストン支部では、ケンブリッジ市内の中華料理レストランChangshoにて第四回目の同窓会をとり行ないました。以前からお子さん連れで参加したいという希望があがっていましたので、今回はご家族での参加がしやすい場所を選んで日中に開催しました。上はID69から下はID14まで、様々な年齢層の同窓生がご家族連れで参加して下さり、とても賑やかで楽しい会となりました。

腰痛･肩こり･頭痛でお悩みのあなたへ

ICU卒業生の佃隆とパートナーの佃美香が開業した当院ファミリーカイロプラクティックでは、ただ単に痛みをとることだけでなく、予防医学の考え方を基に、総合的･継続的なケアを行います。出来る限り、薬や手術に頼らず、手技により脊椎の調整を行い、姿勢美人になっていただき、神経系の働きを活性化させ、「**100%の自然治癒力**」を手に入れるためのお手伝いをいたします。カイロプラクティックケアで期待される効果、期間、頻度、料金を明示し、より良いケア計画を立てるための時間をとり、私たちスタッフと貴方の2人3脚で、質の高いカイロプラクティックケアを進めて参ります。
ICUへの感謝の気持ちを込めて、ICU関係者（ご家族を含む）のご来院初回料金から1,000円をICU同窓会に寄付させていただいております。

Family Chiropractic

ファミリーカイロプラクティック三鷹院
〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-17-19 パレスマンション101
フリーコール 0800-888-4270
「ICUアラムナイニュースを見て･･･」とお電話ください。
web http://mitaka-chiro.com
facebook www.facebook.com/family.chiropractic.mitaka

院長 佃隆

ファミリーカイロプラクティック品川院
〒141-0001 東京都品川区北品川5-9-37 トミーハイツ1D
tel 03-3280-0237
「ICUアラムナイニュースを見て･･･」とお電話ください。
web http://mitaka-chiro.com/mika
facebook www.facebook.com/family.chiropractic.shinagawa

院長 佃美香

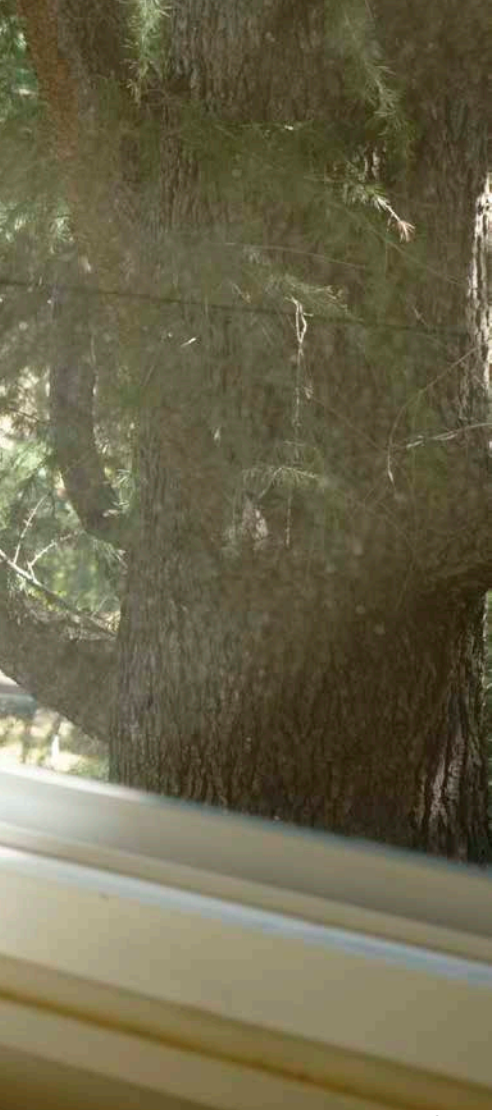


photo Ichinose,Chihiro

香港支部アニュアルディナーのご報告

文：黒岩千賀（30　ID86）

11月14日に香港貿易発展局　日本主席代表　古田茂美さん（院82年修了）にスピーチをいただき、和やかな会となりました。長い間在香港隠れICUだった方や、最近駐在でいらした方など初回参加の方も多く、楽しいひと時でした。お子さんのお世話のために残念ながら、参加できないという卒業生も数名いらしたので、次回は初夏のころファミリーイベントでさらに、盛り上がる予定。いまから、下記連絡先にご連絡いただければ、ご案内します。または、FBでフォローしてくださいね。

icuhk@hotmail.com

http://www.facebook.com/group.php?gid=70261608882&v=wall

ICU長唄研究会・東京大学長唄研究会第40回記念定期演奏会報告

文：大北博美（49　ID05）

去る2014年12月20日、月島社会教育会館にてICU長唄研究会・東京大学長唄研究会第40回記念定期演奏会を行いました。

1976年の第1回に始まり、2002年から東京大学長唄研究会と共催する本定期演奏会は今回で40回を数え、プロのお囃子奏者である福原鶴祐社中にお願いしての記念の演奏会となりました。

小雨の中、会場が満席になるほどたくさんのお客様がお越しくださり、両大学の現役・OB総勢約60名が参加して、全9曲を演奏しました。

これまで指導くださった先生方、またご支援くださる方々のおかげで今回40回目を迎えられたことに感謝し、今後も多くの学生たちが長唄研究会で長唄を楽しみ、定期演奏会、また長唄研究会の活動が末永く続くことを願ってやみません。

ICU長唄研究会

http://blog.livedoor.jp/icu_nagaken/

二胡愛好家の方がいらしたらご連絡ください!

文：谷摂子　（33　ID89）

数年前に中国の伝統楽器「二胡」に出会い、その魅力にとりつかれてレッスンを続けています。卒業生で二胡に親しんでいる方がいらしたら、是非ご連絡ください。

ICU卒業生の二胡ネットワークを広げるばかりでなく、在学生の同好会/クラブ活動設立の支援が可能であれば…と考えています。

ご興味がおありの方は、niko.niko.icu@gmail.com へ卒業年（又はID）とお名前、二胡歴等をお知らせください。

43期会のご案内

文：大西菜穂子（旧姓　広瀬）（43　ID99）

【リユニオン・パーティー】

ID 99（43期）のみなさま

2015年4月5日（日）

11:00 ～ @ ICU 学食

同窓会を企画しました。

入学からもう20年！あの頃の気持ちになってわーわー騒ぎましょう。同期の小泉明郎くんのインスタレーション作品鑑賞会も開催予定です。周りの99、セプテンの方々にもお知らせ下さい。

花見のついでに、ぜひご参加よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ・参加申し込みはこちらへ。

id99.2015@gmail.com

Looking for a student from the Class of '97

Ged O' Connell（ELP/ELA　teacher）

My name is Ged O'Connell and I have been a teacher in the ELP/ELA since 1992. I am trying to find a student from the Class of '97, from either Program A or B.

I gave an NP lecture in February, 1994 about the right to die in which I discussed the case of my daughter, Megumi. After the lecture a student placed a letter on the front desk in N220. I didn't see the student, and the letter wasn't signed so I don't even know if it is a woman or a man. However, the person talked about his/her "little brother" who had cancer and who had recently died. The letter meant a lot to me at the time and has become more significant now, so I would like to contact this person.

If you are the person I am describing, and you are willing to contact me, please email me at oconnell@icu.ac.jp . If you know this person, could you please contact them and make them aware of the situation. He/she can then decide to contact me if they want to.

Thank you in advance for any help you can give me.

寄付者御芳名

山岸　瑞枝（故　山岸次郎（1）令夫人）

ファミリーカイロプラクティック三鷹院＆品川院

貴重なご寄付を賜り、誠にありがとうございました。

MISSING たずね人

池田　英人（35　ID91）

深見　淳（43　ID99）

森田　雄太（52　ID08）

上田　哲也（52　ID08）

古川　真宏（53　ID09）

小山　英恵（55　ID11）

動静をご存知の方は事務局までご一報ください。

訃報　Obituary

J.Edward KIDDER Jr.　名誉教授

開澤　康光（2）

長尾　禮子（13）

心よりお悔やみ申し上げます。

事務局からのお知らせ

★ 広告募集！

本誌では広告を募集しています。フルサイズ６万円・ハーフサイズ３万円で承っております。ご興味のある方は、詳細を事務局までお問合せください。

★ 原稿をお寄せください！

期会、リユニオン等の案内・報告をお寄せください。本誌およびホームページに掲載いたします。

★ ICU 同窓会とは関係のない名簿業者にご注意ください！

「人事新報社」という業者から名簿の申込みの往復はがきが郵送されているようですが、この業者は ICU とも ICU 同窓会とも一切関係がございません。個人情報の流出にはくれぐれもご注意ください。

★ 同窓会名簿について

同窓会名簿は2006年に発行されたものが最後となります。まだ在庫がございますので、購入をご希望の方は事務局までお問合せください。

★住所変更について

住所・勤務先・氏名の変更の際は同窓会ホームページの住所変更、メール（aaoffice@icualumni.com）またはFAX（0422-33-3320）で、ご一報ください。地方・海外にご転勤の際には支部をご紹介いたします。同窓会事務局までお問合せください。携帯の方はこちらからどうぞ:

★ ご協力をお願いします。

大学の宣伝＝大学への支援という考え方から、同窓生の著作、雑誌インタビューなどには、略歴欄に「国際基督教大学卒業」とお入れいただけますよう、お願い申し上げます。

★ 四季が綺麗な ICU キャンパス。足を運ばれた際にはアラムナイハウスへお気軽にお立ち寄りください。

100円にてコーヒー・紅茶をお出ししております。なおラウンジ使用中にはご要望に沿えない場合がございます。

■大学・同窓会に関する情報が満載です。ぜひ一度ご覧ください。

同窓会ホームページ

http://www.icualumni.com/

大学ホームページ　http://www.icu.ac.jp/

JICUF ホームページ　http://www.jicuf.org/

■ ICU 同窓会事務局

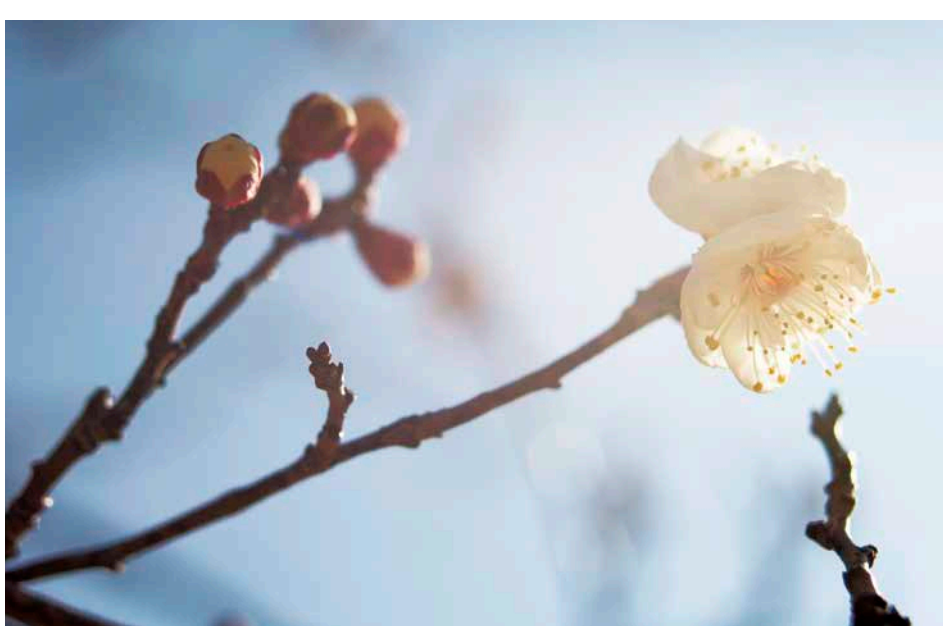
〒 181-8585　東京都三鷹市大沢 3-10-2

TEL&FAX : 0422-33-3320

Email : aaoffice@icualumni.com

■ 同窓会広報部（ALUMNI NEWS 編集部）

Email : kohou@icualumni.com



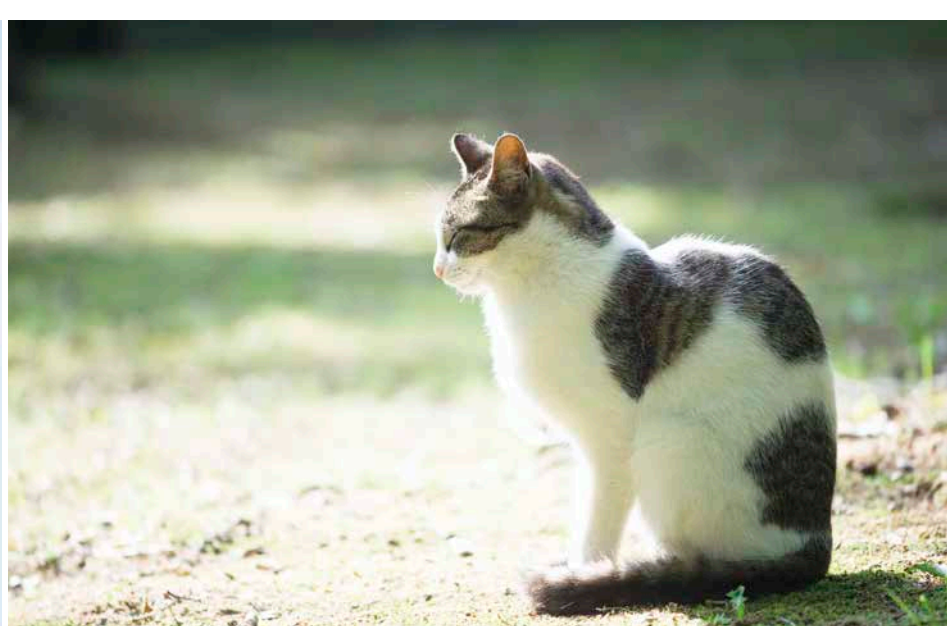


photo Miyamori,Koh

3月28日
SAT.
総会・DAY 賞表彰式　10:30 ～
懇親会 12:50 ～

桜祭りのご案内

文：櫻井淳二（総務部担当副会長）（28 ID84）

春の訪れを告げる同窓会「桜祭り」を開催します。

今回で10回目を迎える同窓会「桜祭り」は、同窓会年次総会、DAY賞表彰式、卒業50周年記念式典、懇親会など、さまざまな企画を統合した同窓会の総合イベントです。そして、毎年卒業50周年を記念し、今年は9期生の方々をお招きします。

できるだけ多くの方々が、この機会に桜咲く懐かしいキャンパスに足をお運びになり、懐かしい方々との旧交を温めてくださいますように。ぜひ、お知り合いの同窓生にお声かけの上、ご参加をお願い申しあげます。

当日は、同窓生が作るICUワインや日本酒「ばか山」をはじめ、新作の楽しいICUグッズも多数ご用意しております。実際にお手に取って吟味してみてはいかがでしょうか。

また、当日の様子はインターネットによるストリーミング配信でご覧いただける予定です。詳細は同窓会ホームページ等でお知らせします。

2015年　ICU桜祭り

開催日：2015年3月28日（土）

場所：ICUキャンパス　礼拝堂および大学食堂

● 総会・DAY賞表彰式・9期生の50周年記念式典　（礼拝堂にて）
　10:00　開場　10:30　開始
　12:30　終了

● 懇親会（ダイアログハウス内大学食堂にて）
　12:50 ～ 14:00（予定）
　参加費：4,000円（卒業生および同伴者）1,000円（在学生）

☆2014年6月、2015年3月卒業の皆様は「無料招待」となります。

お申し込み、お問い合わせ

各プログラムへの申込み・お問い合わせは、ICU同窓会事務局で承ります。
総会・懇親会への出席ご希望の方は、以下のいずれかの方法で
必ず3月15日（日）までにお願いします。

● 同窓会ホームページから：http://www.icualumni.com/の参加申し込みフォームからお申込みください。
● メール：sakura@icualumni.com宛てに送信してください。
● ファックス・電話：0422-33-3320までご連絡ください。
● ハガキ（3月15日消印有効）：本号に同封のハガキに52円切手を貼ってご利用ください。

なお、2016年度以降ハガキの同封については廃止を検討しております。
皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

※9期生の皆様へ
1月に別途お送りしているご招待状に同封のハガキをご利用ください。

DAY（Distinguished Alumni of the Year）賞は、ICUに在籍したことのある人（卒業生・留学生・旧職員を含む）の中から、大学および同窓会の知名度・魅力を高めることに貢献した方に対し、毎年その功績を称えるために授与されるものです。
また、毎年「Happy 10's」と称して、卒業してから10年、20年、30年、40年の節目を迎える同窓生で懇親会ご参加の方に、同窓会より記念品をプレゼントしております。
19期（ID75）、29期（ID85）、39期（ID95）、49期（ID05）の皆様、おめでとうございます。同期の方々とお誘いあわせのうえ、ぜひご来場ください。
同窓会正会員の方で、総会資料を事前に入手されたい方には、同窓会事務局から、ご登録の送付先ご住所に郵送いたします。
電話・ファックス：0422-33-3320または電子メール：sakura@icualumni.comにご請求ください。

STAFF

EDITOR IN CHIEF
岡田 庄生 Okada, Shoo（47 ID03）

MANAGING EDITOR
栗山のぞみ Kuriyama, Nozomi（34 ID90）

EDITORS
山岡清二 Yamaoka, Seiji（6）
石井雅仁 Ishii, Masato（30 ID86）
樺島榮一郎 Kabashima, Eiichiro（37 ID93 G1997）
森川幹人 Morikawa, Mikito（47 ID03）
野仲裕子 Nonaka, Yuko（48 ID04）
小林智世 Kobayashi, Tomoyo（52 ID08）
加藤菜穂 Kato, Naho（53 ID09）
吉村光八 Yoshimura, Mitsuya（60 ID16）

PHOTOGRAPHERS
一之瀬ちひろ Ichinose, Chihiro（42 ID98）

ART DIRECTOR
佐野久美子 Sano,Kumiko（44 ID00）

PRINTING DIRECTOR
杉浦健一 Sugiura, Kenichi（小宮山印刷）

EXECUTIVE DIRECTOR
松島眞理 Matsushima, Mari（36 ID92）

PUBLISHER
木越純 Kigoshi, Jun（27 ID83）

COVER PHOTO
国際基督教大学図書館歴史資料室提供
BACKCOVER PHOTO
Ichinose, Chihiro

ご意見・ご感想をお気軽に

アラムナイニュースは、同窓生のみなさまのために制作しているものです。今後の制作の参考にしますので、ご意見・ご感想、企画や人物の紹介等がある方は、メールにてお気軽に事務局までお知らせください。

アラムナイニュース編集部員募集

あなたの経験をANに生かしてみませんか？企画、取材、執筆、撮影、編集進行等を一緒に担って頂ける方を大募集中です。もちろん未経験でも可。最初は一緒に取材などを行いながら編集のプロから直接技術を学べますし、3年ぐらいやれば、一通り編集の基本が身に付きます。もちろん、現役の学生さんも大歓迎です。興味のある方は、同窓会事務局へメールでご連絡ください。

aaoffice@icualumni.com

速報！同窓会福利厚生プログラム開始！

この度、同窓会では、終身会費を納入済みの同窓生のみなさまにさらなるベネフィットをもたらすべく、新しい福利厚生プログラムを始めました。株式会社イーウェルによるWELBOXというサービスで、大手企業や他大同窓会での採用実績があります。会員制リゾート施設ホテルハーベストが利用できるほか、映画やディズニーリゾートの割引など、多様な優待プログラムが準備されており、同窓生本人だけでなく、兄弟や子ども、孫、祖父母まで利用することができます（2親等以内の親族）。

詳しくは、同封のご利用ガイドをご一読のうえ、ぜひ積極的に活用ください。

ICU同窓会 公式Facebookにご注目下さい!

これまで、ICU同窓会の広報ツールとして、年に２回の会報誌「アラムナイニュース」と、同窓会WEBサイト（http://www.icualumni.com/）を通じて情報提供を行ってきましたが、これまで以上にタイムリーな情報提供を行うため、新たにICU同窓会公式Facebookページを立ち上げました。同窓生同士の懇親の輪がさらに広がるような企画も検討中です。Facebookに登録している人は、ぜひページを訪れて「いいね！」をしてください。

このICU同窓会Facebookページでは、評議員会等の同窓会の活動はもちろんのこと、ICUのニュースや卒業生の活躍など、世の中のICU関連ニュース、同窓会広報部のメンバーが発見した情報も投稿していく予定です。また、季節の時々のキャンパスの様子をアラムナイハウスの同窓会事務局員が写真で投稿するなど、ICUの今を感じる記事も発信します。投稿にはコメントもつけられるので、同窓生同士の会話も生まれるのではないでしょうか。

また、管理者である同窓会広報部メンバーだけでなく、一般の同窓生でもページにメッセージを投稿できるので、同窓生が参加可能なリユニオン等の情報があれば、ぜひ活用して下さい。

なお、Facebookに会員登録していない人は、書き込みは出来ませんが情報を見る事は可能です。

https://www.facebook.com/icualumniassociation

photo Ichinose, Chihiro